予 算 審 査 特 別 委 員 会

1. 日 時 平成21年3月10日(火曜日)
午前9時30分～午後5時20分
2. 場 所 委 員 会 室
3. 出席委員
徳 並 伍 朗 委 員 長	山 中 佳 子 副 委 員 長
竹 岡 昌 治 議 員	安 富 法 明 委 員
南 口 彰 夫 委 員	大 中 宏 委 員
村 上 健 二 委 員	原 田 茂 委 員
佐々木 隆 義 委 員	布 施 文 子 委 員
山 本 昌 二 委 員	田 邊 諄 祐 委 員
柴 崎 修 一 郎 委 員	西 岡 晃 委 員
下 井 克 己 委 員	岩 本 明 央 委 員
三 好 睦 子 委 員	萬 代 泰 夫 委 員
高 木 法 生 委 員	有 道 典 広 委 員
岡 山 隆 委 員	馬 屋 原 眞 一 委 員
秋 山 哲 朗 議 長	河 村 淳 副 議 長
4. 欠席委員 荒 山 光 広 委 員 河 本 芳 久 委 員
5. 出席した事務局職員
重 村 暢 之 局 長	佐 伯 瑞 絵 係 長
佐々木 昭 治 係 長	田 畑 幸 枝 企 画 員
6. 説明のため出席した者の職氏名
村 田 弘 司 市 長	林 繁 美 副 市 長
波佐間 敏 総 務 部 長	田 辺 剛 総 務 部 次 長
羽 根 秀 実 総 務 部 財 政 課 長	伊 藤 康 文 建 設 経 済 部 長
金 子 彰 建 設 経 済 部 商 工 労 働 課 長	中 村 弥 寿 男 建 設 経 済 部 農 林 課 長
秋 枝 秀 稔 美 東 総 合 支 所 建 設 課 長	小 嶋 卓 夫 秋 芳 総 合 支 所 建 設 課 長
山 縣 博 行 総 合 観 光 部 長	山 本 勉 総 合 観 光 部 観 光 総 務 課 長

篠田清実	総合観光部観光振興課長	福田徳郎	教 育 長
國舛八千雄	教育委員会事務局長	杉原功一	教育委員会社会教育課長
田中円城	教育委員会学校教育課長	池田善文	教育委員会文化財保護課長
杉本伊佐雄	教育委員会体育振興課長	井上貞一	教育委員会美東事務所長
金子正治	消 防 長	坂田文和	消防本部総務課長
山田隆司	消防本部警防課長	田畑龍男	消防本部予防課長
佐々木郁夫	総合政策部企画政策課長		

午前9時30分開会

委員長（徳並伍朗君） おはようございます。只今より予算審査特別委員会を開会いたします。それでは昨日に引き続き議案第11号平成21年度美祢市一般会計予算を審査いたします。

最初に執行部より昨日の質問の、あるいは補足の回答がありますので発言をお願いいたします。佐々木企画政策課長。

総合政策部企画政策課長（佐々木郁夫君） それでは昨日の竹岡委員のご質問にお答え申し上げます。4月4日のことでございます。資料を配付いたしておりますのでご覧いただきたいと思います。4月4日土曜日ですけれども、第22回みね桜まつりが開催されます。その日に合わせまして美祢市合併一周年記念式典並びに秋芳洞開洞百周年記念式典を行うこととしております。4月4日は朝8時30分から秋芳洞案内所におきまして秋芳洞開洞百周年記念式典を行います。10時から会場を美祢市民会館に移しまして美祢市合併一周年記念式典を行います。そして11時20分から観光のPRを兼ねましてミステリーイベントと題して開催を予定しているところでございます。更に13時から市役所の駐車場のほうで第22回みね桜まつりを開催となっているところでございます。この桜まつりの中で市の花の記念植樹を行うということにしているところでございます。4月4日は市民館のほうへ市民の皆さまのご来場を是非ともよろしくお願いを申し上げたいと思っております。簡単ではございますが、説明は以上でございます。

委員長（徳並伍朗君） ありがとうございます。それでは昨日の委員会の補足を田辺総務部次長よりお願いいたします。

総務部次長（田辺 剛君） 昨日有道委員のほうから訴訟に係わる弁護士委託料の件でご質問があった件につきまして、説明不足の点がありましたので補足させていただきます。訴訟に係る弁護士委託100万円につきましては現在5件、裁判が継続中であります。このうち4件は配食サービスに関わる訴訟、それから1件が旧秋芳町時代からの訴訟でございますが、準用河川工事に係る家屋損傷に関する訴訟、合わせて5件の訴訟を現在抱えておりますが、この訴訟に係る弁護士の旅費、日当、それから勝訴判決があった場合にはその報酬、ということで、裁判が何回あるかもわからないということで一応100万円という当初予算で計上させておるといってございます。それからもう1件が今お手元にお配りしております職員構成表。これは先日の総務企業委員会で安富委員のほうから資料を提出し

てほしいということで、きょうお配りしております。これの詳しい説明については省略させていただきたいと思いますのでご覧いただきたいと思います。以上です。

委員長（徳並伍朗君） ありがとうございます。それでは、商工費を議題といたします。執行部より説明を求めます。金子商工労働課長。

建設経済部商工労働課長（金子 彰君） それでは商工費につきましてご説明申し上げます。予算書の232ページ、233ページをお開きいただきたいと思えます。7款商工費、目1の商工総務費でございます。これの233ページの説明欄002・矯正施設活性化推進経費で225万円を計上いたしております。これは社会復帰促進センターと地域との共生、地元企業の参入等の促進を図るための経費でございます。引き続きこの事業に取り組んで参りたいというふうに考えております。この財源内訳といたしまして、活性化推進室というのを設けておましてそちらの相談員の雇用保険料の本人負担分、諸収入といたしまして1万円を計上いたしております。続きまして2目の商工振興費でございます。これちょっとページがまたがっておりますが、234、235ページをお開きいただきたいと思えます。説明の002・中小企業融資制度事業経費といたしまして3,553万3,000円を計上いたしております。こちらに5項目ございますが、これにつきましては商工業者の資金借り入れにかかる預託金とそれに伴います保証料と利子補給の補助でございます。このうち一番最後の制度融資預託金2,195万円でございますが、これは、今議会に提出をいたしております、美祢市小規模企業者融資制度に関する条例に基づきます預託金でございます。続きまして003・産業振興対策経費でございますが、これは雇用拡大のための国の施策によります事業でございます。緊急雇用創出事業委託料に806万4,000円、これにつきましては就業をめざす方が一時的に繋ぎのための就業をするということで6ヶ月以内の雇用期間ということでございます。また、その下のふるさと雇用再生特別交付金事業委託料750万でございますが、これは安定的な雇用創出を目指すということで1年以上の雇用を求めるといふ事業でございます。なお、こちらの財源内訳といたしましては002の中小企業融資制度事業経費の1番目、2番目、3番目、商工貯蓄共済融資制度、制度融資保証料補給補助金、また制度融資利子補給補助金、こちらの3項目と、前のページに戻りますが、233ページ説明欄の下から3番目、市商工会運営費補助金こちらにつきましては232ページにあります繰入金、これは地域活性化生活対策臨時交付金にかかる基金の繰入金でございますが、この956万4,000円を充当

するものでございます。また中小企業融資制度事業経費のうちの下2つでございますが、商工組合中央金庫預託金並びに制度融資預託金につきましては、これまた232ページの諸収入2,695万7,000円、これは中小企業貸付金元利収入でございますが、こちらの経費を充当するものでございます。また235ページに戻りますが、産業振興対策経費の緊急雇用とふるさと雇用の経費総額1,556万4,000円につきましてはこれも232ページにございますが、県支出金・労働諸費補助金としまして全額県のほうからの補助で賄うということでございます。以上です。

委員長（徳並伍朗君） 篠田観光振興課長。

総合観光部観光振興課長（篠田清実君） 引き続きまして目の4観光費についてご説明申し上げます。002・観光費新規事業でございます。先程、企画政策部のほうからご説明がございましたが4月4日に行われます式典におきまして、式典終了後開催されますイベントの委託料でございます。財源につきましては地域活性化生活対策臨時交付金を充てるものでございます。次にその下、ふるさと雇用再生特別交付金事業委託料500万円でございます。これにつきましては美祢市の観光資源を活用し魅力的な地域づくりにより観光客誘致を推進するための委託料でございます。続きましてその下、施設整備工事200万8,000円でございます。これにつきましては美祢さくら公園の桜の記念植樹にかかる経費でございます。来年度は句碑付きの桜の植樹が26本、句碑なしの桜の植樹が8本となっております。一枚めくっていただきまして237ページ、上から2行目、秋吉台観光まつり助成金800万円でございます。これにつきましては夏の観光まつりの開幕イベントといたしまして秋吉台地域の観光振興及び地域の活性化を図るために秋吉台で花火まつりを実施するための経費でございます。続きまして上から11行目、下関・長門・美祢広域観光推進事業費負担金でございます。昨年の12月12日に下関市・長門市及び美祢市において広域観光振興に関する協定を結びました。そのことによりそれぞれの観光施設を周遊するための共通チケット及び広域観光ガイドブックを作成するための負担金でございます。

委員長（徳並伍朗君） 山本観光総務課長。

総合観光部観光総務課長（山本 勉君） 続きまして繰出金でございますが、4,178万8,000円につきましては観光事業特別会計のリフレッシュパーク施設整備事業にかかります償還金及び利子に対します交付税の算入額分等でございます。

す。観光事業特別会計に繰り出すものでございます。観光事業特別会計への繰り入れにつきましては385ページの観光事業繰入金として歳入のほうで計上しております。続きまして003・観光地維持管理経費につきましては水神公園・大岩郷・さくら公園等の維持管理経費を計上しております。それから005・エコ・ミュージアム管理費につきましてはエコ・ミュージアムの管理運営経費に必要な経費を計上しておりますが、主な経費は光熱水費の電気水道代や清掃の委託料となっております。秋吉台エコ・ミュージアムにつきましては、県の指定管理者ということで市がなっております。指定管理は平成18年4月1日から平成23年3月31日までの5年間となっております。これには委託金203万5,000円が県のほうから入ってきますので歳入のほうで計上しております。これにつきましては、また歳入のほうでご説明申し上げたいというふうに思います。以上です。

委員長（徳並伍朗君） 金子商工労働課長。

建設経済部商工労働課長（金子 彰君） 238ページ、239ページ、5目の道の駅管理経費でございます。この道の駅管理経費は道の駅おふく並びにみとうの維持管理に伴います経費で、総額916万4,000円でございます。この財源内訳といたしまして使用料及び手数料、これは道の駅みとうの使用料でございますが、413万円。諸収入、これも道の駅みとうに伴います商工雑入でございますが425万5,000円を充当するものでございます。続きまして240ページ、241ページをお開きいただきたいと思います。目の7企業誘致対策費でございます。これは報償金といたしまして240万円を計上いたしております。これは美祢市企業立地奨励条例に基づく雇用奨励金でございます。2社12人分1人につき20万円でございますが、合計して240万円を計上いたしたものでございます。これにつきましてはの財源内訳は地域活性化生活対策臨時交付金にかかります基金繰入金212万4,000円を充当するものでございます。続きまして、目の8十文字工業団地給水施設費でございます。これは十文字工業団地へ立地をしております企業への水の供給と施設の管理費でございます。合計505万6,000円ということでございます。この財源内訳といたしましてはその給水使用料、505万6,000円全額を充当するものでございます。以上で商工費のご説明を終わります。

委員長（徳並伍朗君） 説明が終わりました。それでは、質疑を行います。質疑はございませんか。山本委員。

委員（山本昌二君） 今ページが235ページの緊急雇用創出事業委託料、806

万4,000円。この件でちょっとお尋ねします。6ヶ月以内と言われましたが、その辺のことをちょっとお尋ねします。と申し上げますのが今、御坊から下郷小学校のほうに入ったところで緊急雇用対策という看板を建てられて、道路際の草刈り、あるいは清掃作業をしておられたグループがありました。ゆっくりして見るとやはり30歳前後の若い方が一生懸命作業しておられました。その姿を見たときに非常に大変だなというように思ったわけですが、そうしてメモしておいた矢先にこの235ページでこの説明がございました。6ヶ月以内ということは、ちょっとお尋ねしますが、例えば、会社を辞めて次の地元の会社に入ったということでその時期の基準になる日ですね、それがどこでどういうふうに算定されてこうした委託料が払っておられるかちょっとお尋ねしたいと思います。

委員長（徳並伍朗君） 金子商工労働課長。

建設経済部商工労働課長（金子 彰君） 山本委員のご質問でございますが、この度の緊急雇用創出事業につきましては昨年度末から経済不況に陥りまして派遣労働者の雇用解雇、また正規職員の解雇等に伴います国の施策でございます。従いまして基本的には離職証明等持っておられる方について対象になるということでございますが、現に職を持っておられない方につきましても拡大解釈といえますか、ということで対象になるというふうに聞いております。従いまして現在職に就いておられない方が新たに正規な職を求められる間の繋ぎといえますか、それまでの経済を支えるための雇用ということでこの緊急雇用創出事業がおこなわれるということでございます。以上です。

委員長（徳並伍朗君） 三好委員。

委員（三好睦子君） 233ページのふるさとまつり委託料とありますが、これは何件なのでしょう。それと239ページの道の駅の管理経費なのですが、これは於福と美東ということですが、昨年美東は地域活性化のために地元の方が、第1回で、名前は仮称でしたが、夏の祭典リバーサイドなんとかで、夏の祭典で美東の方たちが地域の活性化のためにイベントをやられたのです。若い人たちのライブとか舞踊とか健康体操もありましたが、がんばっていきたく。それでステージの設備とかいろいろやられたのですが、なかなかこういうのも支援していただかないとボランティアばかりではやっていけないと、ずっと活性化のために続けていきたいということで予算をとっていただきたいというのを聞いておりましたので、この中にはそれは入ってないとは思いますが、予算を増やしていただきと思います。この

2件についてお尋ねをいたします。

委員長（徳並伍朗君） 金子商工労働課長。

建設経済部商工労働課長（金子 彰君） 三好委員のご質問でございます。一件目の233ページのふるさとまつり委託料216万円でございますが、これは何件かということでございます。これにつきましては8月の第一土曜日に旧美祢市伊佐町にありますスポーツセンター、伊佐公園グラウンドで開催いたしておりますアンモナイトフェスティバルこれに伴います委託料でございます1件分でございます。また239ページ、道の駅管理経費ということで道の駅みとうにおきましてそういったイベントが開催されてそれに対する予算措置をとということでございます。これにつきましては、この経費の中にその予算は組んでおりません。今後そういったことで地域興し、地域活性化ということでご要望がございましたらご相談には応じたいというふうに考えております。以上です。

委員長（徳並伍朗君） 三好委員。

委員（三好睦子君） 相談に参りますので是非お願いいたします。それからふるさとまつりの委託料なんですけど、これはアンモナイトだけだということなんですけど、美東町では真長田では夏祭りをやっております。大田でもやっておりますし、赤郷では3件ぐらいやっておりますので、是非、補助をしていただきたいと思えます。赤郷も桜まつりとかやっておりますのでやはり地域の活性化のためにはこういったイベントが活性化にもなりますし、観光客を呼ぶことになりまして、夏では帰省してこられるかたの唯一の楽しみだと思えますので是非補助をお願いしたいと思えます。よろしくお願いいたします。

委員長（徳並伍朗君） 林副市長

副市長（林 繁美君） ただいまの三好委員のご質問ですが、各地域において催されるイベント、祭り等について行政からの補助金をとということでございます。当然旧美祢市においても各地域でありますし、今も継続しております。なかには地元の宗教的なことに絡んでの祭り等もあります。しかしながら行政がどこまで手をさしのべるかというところに問題があるろうかと思えます。全市的なもの等、またほかに観光客誘致等の大きな目的がある場合においてはそういった行政からの補助金なんかもお出しすることは可能ではないかと思えますが、そういった地域興しに関わるイベント、祭り等については、今のお話の中では問題があるのではというような気がいたします。

委員長（徳並伍朗君） 安富委員。

委員（安富法明君） 2点ほどお伺いをいたします。239ページの産業技術センター費というのがあります。どこにあってどういうふうなことをされておるのか。これが1点。その次がその次のページで十文字工業団地の給水施設費なんですが、現在費用対効果ということなんですが、何社で何人ぐらいの雇用があつて、わかればこれに関わる税金とかを教えていただきたい。優遇措置があるよとかつていうふうなことも含めてお伺いいたします。

委員長（徳並伍朗君） 金子商工労働課長。

建設経済部商工労働課長（金子 彰君） 安富委員のご質問でございます。第1点目の産業技術センターでございますがこれは大嶺町奥分、行政区でいいますと麦川、旧大嶺駅の北側になりますが、そちらのほうにある施設でございます。地元の皆さんに使っていただくということで総二階建てのセンターということでございます。地元の集会、並びにいろいろな詩吟の教室等に使っていただいております。続きまして240ページ、241ページになりますが、十文字工業団地につきましてですが、昨年1社創業がございまして全部で8社になったと記憶しております。従業員につきましては今手元に資料がございませんのでお答えが不可能でございますが、また税金につきましても今資料がございませんので後ほど従業員、税金につきましては調査してお答えをさせていただければと思います。以上です。

委員長（徳並伍朗君） その他ございませんか。有道委員。

委員（有道典広君） 商工振興費のことですが、233ページですね。空き店舗対策補助金50万円出てますけど、これ事業対象というかどうかといったところに補助金が出るかをまず最初にお答え願いたいと思います。

委員長（徳並伍朗君） 金子商工労働課長。

建設経済部商工労働課長（金子 彰君） 有道委員のご質問でございます。この空き店舗対策事業につきましては美祢駅前の市道吉則榎田線の両脇といいますか、そういうところに空き店舗がございまして。旧駅前の商店でございまして、そちらのほうの空き店舗を利用して新規に店舗を開設していただくということに対しまして、その改修費に対する補助金ということで1件につき50万円を限度として補助をするというものでございます。以上です。

委員長（徳並伍朗君） 有道委員。

委員（有道典広君） よくわかりました。各市でもいろんな空き店舗対策で大変苦労されておると思っています。美祢市も当然ながら吉則周辺だけでなくいろんな空き店舗が増えております。街並みの活性化と市の活性化にやはりこういうことも大切だと思いますが、いかんせん50万円ぐらいではちょっと少ないんじゃないかなと思ひまして質問させていただきました。そういうことも大事でしょうけど抜本的な対策でもう少し大きな、かたや金を削れという質問もしておりますけど、こういうのも大事な焦点ではなからうかと思っておりますので、50万というのがちょっと少なすぎるのではないかと思っております。抜本的な対策をよく検討されて頑張っていたきたいと思ひます。ありがとうございました。

委員長（徳並伍朗君） その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（徳並伍朗君） ないようでございますので質疑を終わります。次に土木費を議題といたします。執行部より説明を求めます。伊藤建設経済部長。

建設経済部長（伊藤康文君） これより土木費でございます。242ページ、243ページをお願い申し上げます。8款土木費でございます。1項土木管理費、目1の土木総務費でございます。右の説明欄の002・土木総務経費の中の下から6行目の住宅・建築物耐震改修等事業でございます。これについては2つの補助金がございます。1つに木造住宅耐震診断事務補助金14万で一般住宅の耐震診断や耐震改修の経費に補助するため国や県の制度を受け、旧美祢の時代から、平成19年9月より補助実施しております。現在美祢市全域を対象としております。内容としましては、耐震診断1戸分が実態として4万2,000円程度かかるということで、その金額の3分の2の2万8,000円を上限としまして国が2分の1、県・市がその半分ということになります。それと対象建築物は市内にある1戸建ての木造住宅、新耐震基準というのが昭和56年5月にできましたが、その基準前に着手された建物ということです。これまでの実績をいいますと、今年度に診断件数1件ございました。今回は耐震診断5戸分で14万円を計上しております。もう1つとしまして民間建築物耐震診断事業補助金として100万円。民間建築物の耐震経費に補助するためのものです。耐震診断1棟分が150万円程度ということでその対象としてその3分の2の100万円を上限としまして同じく国2分の1、県・市がその残りの半分ずつということで今回は耐震診断1戸分100万円を計上しております。また民間建築物の条件としましては、一般的には不特定多数が利用する建築物

である一定規模である特定建築物が対象です。現在事前の調査では該当する建物は美祢市内には2, 3棟あるというふうに把握しております。これの財源につきましては特定財源としまして国庫支出金が57万。県支出金が72万円です。次のページをお願いします。目2の地籍調査費でございます。右の説明欄の002・地籍調査事業、9, 846万5, 000円でございます。美祢・美東地区6箇所、美祢が持田・岩ヶ河内・堤、美東が赤・綾木・長田の3地区でございますが、その3地区で約4.8平方キロメートル。002の下のほうになります。その中の測量委託料、8, 012万7, 000円とその一段下の地籍原図作成等の業務委託221万7, 000円の合計に事務費等のための一定経費率を掛けたものの合計9, 361万8, 000円、それが補助対象事業でございます。それに対して特定財源75%でございますが、県支出金としまして7, 020万9, 000で計上しております。その他に単独で実質業務運営のための機器保守委託料、電算機器借上料等々経費を484万7, 000円の合計が全体の地籍調査事業となっております。参考までに現在の地籍調査の20年3月末の進捗率は去年が36.47%で今回20年度過ぎますと38.01%ということになります。次のページをお願いいたします。

2項の土木橋梁費、目1の道路維持費でございます。4, 028万9, 000円。主な内訳としまして右の節の業務委託料、2, 225万。市道の立木伐採、除草散布等、道路補修、除雪作業、応急作業等がございます。その下の道路整備工事1, 000万円でございますが、道路維持に関わるものでございまして工事5件、舗装・補修2件、側溝整備等1件、その他拡幅等2件を予定しております。その下の目2、道路新設改良費。節の一番下の002・地域活力基盤創造交付金事業、次のページにわたりますが、今の事業名は新規事業名でございますが、旧称は地方道路整備臨時交付金事業と言いました。道路特定財源が一般財源化に伴いまして道路を中心に関連する他のインフラ整備や関連するソフト事業を含め地域の実情に応じて使用できるというもので創設されたものでございます。旧事業名を継承するものとなっております。そのうち8, 487万4, 000円。事業としましては美祢地区の沖田1号線改良と秋芳地区の秋吉地区の秋吉小学校線の2件がございます。最初に沖田1号線でございますが、場所は美祢土木事務所の東側を南北に走った道でございますが、平成17年度より継続事業でやっておる事業でございます。それにかかわる用地関係、工事費、事務費等の事業費で700万。うち400万は交付金事業内で、うち300万は路線の橋梁、右岸側の補完的な改良工事等ございま

す。これには当初、県の河川工事との負担割合がございまして取り組めた県負担金事業もございます。よって特定財源にも県支出金290万を計上しております。もう一つに秋吉小学校線改良でございますが、平成20年、今年度に測量設計済ませまして21年度から新規事業で23年までの4カ年事業、場所は秋吉小学校の南側を走った道路でございますが、道路延長730m、計画幅員9.5m、2車線の片歩道でございますが、本年度はそのうち延長180m、工事費6,500万、用地補償費870万、交差点等の詳細設計300万、それに合わせた事務費が対象となっております。沖田1号線と合わせた特定財源で、前に戻りますが、国庫支出金として4,620万を計上しております。それと先程説明しましたが県支出金としまして単独河川環境整備事業として290万の県支出金がございます。それに合わせましてその他のところで75万ございますが、これは新設改良関係の急傾斜の美東景平地区をする関係の地元負担金でございます。財源の説明が先になってしまいましたが、249ページの説明欄の003・道路新設改良事業、1億4,397万3,000円でございます。これにつきましては測量設計委託料500万、それと道路整備工事、道路改良にかかるものでございまして、工事16件、9,250万。改良9件、舗装7件、道路拡幅等は1件重なっておりますが予定しております。それと補償金は8件で990万でございます。登記委託料等の経費を含め合計で1億1,397万3,000円がございます。それと土地購入費の下にあります県事業負担金でございます。3,000万円。県の21年度の事業、急傾斜地崩壊対策・自然災害防止・単独道路改良等の負担見込額を計上しているものでございます。次の250ページをお願い申し上げます。3項都市計画費、目2の街路事業費でございます。これにつきましては右側の節の002・まちづくり交付金事業、7,763万6,000円。美祢市の中心市街地地区・大嶺吉則下村地区区域になりますが、17年から21年、来年までですが継続事業でございます。21年度はこの区域の中の道路整備工事として7,542万9,000円、道路整備工事で予定しております。その内容としましては、区域内の緑地整備・多目的広場の整備・情報盤関係・広幅歩道の関係の舗装関係・遊歩道のカラーペイント関係、単独になりますがその他支障物撤去等でございます。事務費を含めた全体事業費で7,629万。特定財源で国庫支出金としまして左のページになりますが、2,080万。全体補助率は、まちづくり交付金事業は40%ですが5カ年の最終年に調整するためこの金額になっております。節の2の調査研究委託料がございまして、160万

7,000円この事業は特に事後評価を重視した制度でございまして、事前に定めた数値目標の達成状況等の確認と成果を踏まえた今後のまちづくり（テープ中断）次のページをお願いします。目5の都市排水路整備費4,388万3,000円です。右の節になりますが、施設整備工事としまして4,160万1,000円。及び補償金としまして120万。これは吉則地区都市排水路整備といいましてこの区域、大嶺西排水区といいますが、18年度に基礎調査をしまして19年度より工事をしております。22年度完了予定でございまして、21年度はこの区域の山下ポンプ場周辺の既存水路の嵩上げ及び自動転倒ゲート2基の工事と電柱移転等がございまして。その他に下嶺地区都市排水路整備、176万4,000円。大嶺町の下嶺地区でございまして、既存水路の改修工事でございます。目7については財政のほうから。

委員長（徳並伍朗君） 羽根財政課長。

総務部財政長（羽根秀実君） 続きまして目7の公共下水道事業の繰出金でございます。6億552万7,000円を公共下水道事業会計への繰出金として計上いたしております。

委員長（徳並伍朗君） 伊藤建設経済部長。

建設経済部長（伊藤康文君） 続きまして254ページ、255ページをお願いいたします。5項の住宅費でございます。目1の住宅管理費、特定財源として320万がありますが、これについては右側の説明の001・住宅管理経費、住宅現在42団地894戸ございまして、その維持管理全般に関わるものでございまして、特定財源としまして、秋吉の八重団地の家賃低廉化事業の補助金を充当しております。それとその他の使用料及び手数料につきまして2,669万5,000円。これは住宅使用料の一部を充当しています。諸収入の536万につきましては美東の温湯賃貸住宅の使用料も合わせて充当しております。次のページの256ページをお願いします。目2の住宅建設費でございます。これにつきましては、右側のページの002・地域住宅交付金事業、住宅に関する大半のことがこの交付金事業で対応できるようになっております。その中の内容としまして継続費の関係で、324ページを開けていただきます。平成20年度当初に継続費として設定、承認されたものでございまして、下嶺北団地住宅立替事業できまして20年度が年割額で8,681万3,000円。21年度が3億4,464万2,000円。合わせまして4億3,145万5,000円を承認していただいておりますが、こ

の住宅につきましては現在の状況をご説明申し上げます。現在、設計業務委託、地質調査も済ませまして造成工事が現在終わっておる状況でございます。下嶺北団地B棟ということで共同住宅24戸でございます。2LDKを12戸、3LDKを12戸合わせて24戸でございますが、鉄筋コンクリート造、4階建でございます。屋根等につきましては瓦屋根葺きで勾配屋根になっております。エレベーターも1基でございます。この工事を20年度21年度でやるわけですが、工期としましては来年の3月16日を契約工期としております。3月の1月期間くらいで転居予定でございます。今現在、発注状況につきましては、電気機械についてはすでに入札しまして建築についてはこの3月13日に入札予定となっております。256ページのほうにお戻りください。257ページの002の下のほうになりますが、施設整備工事407万4,000円でございますが、これは公営住宅の寝室に報知器を設置するというので消防法のほうで義務付けられまして23年の6月1日までということでございます。美祢地区につきましては22年までを予定しておりますが、21年度につきましては森時団地101戸を予定しております。美東地区につきましては19年度に済んでおりまして、秋芳地区は18年度に済んでおります。その下の木造住宅耐震改修事業でございますが、先程、総務経費の中で耐震診断の説明をしましたが、その結果、改修が必要になった場合の補助でございます。実態としまして45万円程度がいるということですのでその3分の2の30万円を上限としております。国が55%、残りを県と市で出すようになります。その改修工事として2戸分を計上しております。下から3段目の家賃減額等補助765万9,000円でございます。これにつきましては、対象であります建物は高齢者向け優良賃貸住宅でございます。60歳以上の単身者や夫婦世帯を対象にしたバリアフリー住宅でかつ緊急時にも対応サービスなど必要条件を兼ね備えた賃貸住宅でございます。その住宅の入居者負担が公営住宅並に低廉となり入居者負担を軽減しようとするものでございます。現在、美祢地区に平成18年に開始になりましたひまわり園8戸、19年度にめぐみの園、グレースフルで30戸でございます。建設後10年間補助を行うものでございます。21年度は予算においてすべて入居した場合の予算としまして765万9,000円計上しております。財源内訳としまして事業費に対しまして国が2分の1、県・市がその半分ずつでございますが、現状、空き家状況がございますので歳入については40%の入居率に合わせております。すべてを合わせまして地域住宅交付金事業全体で特定財源は国庫支出金1億1,640万円でございます。

それに合わせました県支出金が148万3,000円でございます。土木費については以上でございます。

委員長（徳並伍朗君） 説明が終わりましたが、10時40分まで暫時休憩をいたします。

午前10時28分休憩

午前10時40分再開

副委員長（山中佳子君） それでは休憩前に続き会議を開きます。委員長所用のため副委員長の私が進行させていただきます。どうぞよろしく申し上げます。それでは引き続き質疑を行いたいと思います。質疑はございませんか。西岡委員。

委員（西岡 晃君） それでは何点かお伺いいたしますが、先程の説明では市営住宅42団地あるということで説明ございましたが、42団地のうち耐震性、今耐震基準が変わりましたけれども、耐震基準前の住宅がどのくらいあるかということと、その団地に対しての今後の建て替えなり、また補修等の計画をどのように立てられているかということをお聞きしたいと思います。

副委員長（山中佳子君） 伊藤建設部長。

建設経済部長（伊藤康文君） 西岡委員の質問でございますが、公営住宅のうち42団地894戸と言いました。耐震性につきましては、新耐震基準、先程、言いました56年から基準がありましてそれ以前はすべて耐震基準では、新耐震基準の中では調べなきゃならないということになります。数年前ですが、公営住宅につきましては年度ごとに調査をかけまして耐震性については簡略の診断方法ですが、すべてであるということで認識しております。以前の建物ではございますが、建物の基本的な壁量等、地盤等、あと筋替えとかが検討なるわけですが、その辺を診断した結果、耐震性はすべてであると。しかしながら古いために耐力的なもの、地震によるものではなく耐力的なものは老朽建物が多いというふうには認識しております。それと今後の建て替えについてでございますが、今回20,21年度で下領北の建て替えはその過去の計画に則りしたものでございますが、3年間中断した状況でございます。今回総合計画の中で人口定住等でその辺の人口等から公営住宅のあり方、建設なりが出た場合にそれを総合計画をもちまして住宅関係のマスタープランと申しますか、計画を見直す予定でございます。もちろん古い建物につきましては当然建て替えしなければならない状況でございますが、財源等の都合によりまして下領北

をこの度やりまして当面保留ということで今計画しております。以上です。

副委員長（山中佳子君） その他に質疑はありませんでしょうか。柴崎委員。

委員（柴崎修一郎君） 251ページの道路整備工事、吉則下村間ですね。これ遺跡が出たりしてだいぶ工事が遅れてるかと思うんですけど、7,542万9,000円で21年度どこまで工事がいくのかという点と、もう一点、257ページの施設整備工事ですか407万4,000円、火災報知器、森時で予定されてるということですけど、あとほかには公営住宅で火災報知器取り付けしていないところがどのくらいあるものか、その点二点ほどお伺いいたします。

副委員長（山中佳子君） 伊藤建設部長。

建設経済部長（伊藤康文君） 柴崎委員のご質問にお答えします。まちづくり交付金事業、渋倉伊佐都市計画道路の中に県に代行していただいております。17年から実施しまして途中埋蔵物が出まして1年間延びまして、今、計画では22年に完成予定となっております。現在、補正でもご説明しましたし、用地について1件ほどまだ買収ができてない状況でございます。その辺をいち早く今解決するよう交渉ごと努めております。その辺が一番気になるところでございますが、できれば何かお知恵も拝借したいというお願いにもなりますが、そういうこともございます。一応その用地が片付けば22年度には渋倉伊佐線は国道316から1キロあまり西側の幸嶺園の下村分線といいますか、そこまでにタッチして供用開始になるという運びになっております。もう一点、火報の関係でございますが、美祢地区だけがあと22年までかかります。21年度に101戸やりまして、あと残り新しい住宅からしてやりまして172戸残っております。それで住宅については全部火報については終わるという予定にしております。以上です。

副委員長（山中佳子君） 安富委員。

委員（安富法明君） 4点ほどお伺いします。最初は243ページの説明がありました住宅建築物耐震改修等事業なんですけど、一般の木造住宅が対象ということであったと思いますが、私、秋芳のときにはこういう事業なかったような気がしておるんですけど、美東さんはわかりませんが、もしそうであるなら美東、秋芳を対象にどのように考えておられるのかお伺いをいたします。そして、その次の地籍の件なんですけど、次のページですね、これは質疑というよりは私の思いを述べさせていただきたいんですけど、一応、大きな補助をいただきながら労力をお金をかけて長年かけてやるわけです。秋芳では一応終わってますよね。これで大きな課題が一つ残る

んです。全体としては36%ぐらいでしたか、美東にしても美祢にしても今からが本番ということになるんでしょうが、性格上境を決めるわけですから官民境にしる民地同士にしてもですねかなりの筆界未定がでるんですよ。先程も言いますように多額の費用と労力をかけてやったわりには後で課題が大きく残る。特に官民境あたりについては方領とっておるんですが、刈りはげ部分といいますか、田んぼ作るのに日照権の問題とかで山を刈り込んで、権利は山のほうにあるんですが、耕作地のほうにも耕作権の関係でそういうのがある。耕作を止めたりしたら植林をしまっして、自分のものだというふうな勘違いでしょうけど、植林をしまっして後で境が非常に難しくなる。民地同士もそうなんです。筆界未定で残した場合は、特に山なんかはそうなんです。今、現状からすると売買はとて成り立たないぐらいな単価だろうと思うんですが、仮にこれを筆界未定で残して測量かけたら山代よりはとて多くのお金がかかるはずなんです。でもやはりいったん感情的になって話を始めるとなかなかそういうこと抜きで筆界未定がよけ残るといふ状況に実はなります。ですから民地同士はお互いのことですからさしておいて、特に官民境の境界については職員のかた今からご苦労が多いとは思いますが、極力先に、課題を残さない、解決、その時その時に難しい問題があっても解決をしておくということを是非心がけてやっていただきたいというふうに思います。これはお願いです。それから253ページに県工事の負担金というのが出てきます。3,000万円なんです。これの性格を教えてください。どうふうなものに基づいて、例えば条例とか、県の条例があるのかとかかわれば教えてくださいというふうに思います。それからもう1点は、先程柴崎委員が火災報知器のこと言われました。どういふ火災報知器を付けておられるのかお伺いします。つまり電源が電池なのか電力なのかということ。4点ほどお伺いをいたします。

副委員長（山中佳子君） 伊藤建設部長。

建設経済部長（伊藤康文君） 安富委員のご質問にお答えします。耐震診断の件でございますが、これにつきましては、先程説明でちょっと言いましたが、平成19年9月より旧美祢市では実施したと。当然合併しますと全域を対象にしております。その周知等につきましては市報等でそんなに頻繁には出しておりません。出しておりませんが周知しております。その辺でご利用されたらと思うわけですが、実態としまして先程も言いましたが1件あるという程度です。山口県下にだいたい地震に対するそういう危惧するところが若干少ないような状況にもございます。それ

と木造住宅等につきましては、先程、公営住宅のほうでも説明しましたが、筋替え等が地震に対しての耐える大きさになるわけですが、その辺が診断すると結構大丈夫という状況もあるという認識もあるように思います。今後また美東、秋芳地区においても周知したいと思っております。次に地籍調査について官民境については特に早めにやれということで、当然その後のことを考えますと言われるとおりでございますのでやりたいと思います。それと今、進捗の関係で建設観光委員会の際にもご質問がありまして進捗、今後多額の金がかかるということで、国のほうにおいても22年度を初年としまして次期国土調査事業10カ年計画ということで現状の進捗を鑑みたときに山村部の地域調査における測量の簡素化とか現地立会の簡素化とかということでその案が出ましてより一層の進捗を図れるようになると思います。実際地区では推進委員の方に委任をされて進捗を図めたりする方向もございませぬので今後も計画がでる前にも協議をしながら進捗を高めたいと思っております。それと県事業の負担金3,000万円についてでございますが当然美祢地域の先程言いました事業等に県がやった事業に負担金として発生するというので、その条項等ちょっと認識不足であれなんです、県事業に対して負担が発生するというので認識しておりますがちょっとその辺調べさせていただきたいと思っております。それと火報についてでございますが、あと美祢地区が残っておるわけですが美東・秋芳地区については電池式で対応しておると、美祢地区は電源を引っ張ってやっております。経費的には当然電池式のが安くなります。しかし、当然電池の耐用年数がございませぬのでその辺3地区違うということであれなわけですが、そういう状況でございます。以上です。

副委員長（山中佳子君） 安富委員。

委員（安富法明君） 一番最初の木造住宅の耐震診断なんです、広報等で山口県は確かに、私、いろいろ帰ってくるまでに全国的にわりと歩いたんですが、仕事の関係で、地震がほんと少ないですね。だけどもないっていうわけでもないでしょうからやるわけですから、やはり安心感はあると思うんですが、やはり木造住宅の老朽化ということでいったん地震があったりした場合には特に高齢化が進む今日ですから意義はあると思いますんで広報等での周知とか是非やっていただいたらどうかと思います。それから地籍調査の件はおきまして、県工事の負担金なんですけど、これ単県の事業を中心に県が要するに地元の市町村に負担金を出せっていうんですね。私、条例であるかどうかわからないんです。県が条例か何かで定めている

かっていうのわからないですが、以前から思うんですけどやはり税を原資に運用されてる自治体はその事業に対して受益者負担のようなものを、今の場合は県が市に対してということですよ。こういうふうな負担金を取るっていうのは私違うんじゃないか、筋が違うんじゃないかなという思いがあるんです。市とすれば仕事はやってもらわんにゃあいけないし、お願いをする立場だから多少のことはしょうがないかという思いじゃないかと思うんですけども、ほんとはそうじゃないんだろうと思うんです。従来から県としてはそういう慣例でなかなか全部の要望に応えられないし、地元もそれなりの応分の負担をとというような形で始まったんじゃないかなという気がするんです。国も直轄事業、今頃地元負担を求めるのが良いとか悪いとかという話もありますよね。そういうこと等々考えるとやはりそろそろこういうふうなもの県も大変財政状況あんまりよろしくないみたいではあるんですが、考えていくべき、市は市としてですね。美祿だけ言えば、かた悪いし、取り上げてもらえないかも知れませんが、私はそういう時期にあるんじゃないかなというふうな気がしております。なかなか部長としては答えにくいんじゃないかなと思うんですが、どういうふうな条例等に基づいて決めておられるのかどうかというのは調べていただきながらそういうことをお考えになられたらどうじゃろうかと。議会も議長会等で言ったほうがええのかも知れませんが、執行部は執行部としてお願いをしたいというふうに思います。あと火災報知器の件なんですけど、結局電力と電池があって、電池でやった場合なんですけど、1年か2年すると替えないといけませんよね、その場合に個人の住宅の場合はそれとして、公営住宅の場合やはり設置者の責任といいますか発生します。当然そういうふうな時、人災に及ぶようなところも出てくるかも知れませんが、その時の管理責任というものが出てくると思うんですよ。だからその辺のことをきちんと管理をしていただきたい。以上です。

副委員長（山中佳子君） その他に質疑はございませんか。大中委員。

委員（大中 宏君） 2点ほど質問させていただきます。第1点は地籍調査の件ですけど、現在21年の3月末現在では美祿が19.26%、美東が13.6%ということでこの調子でいきますとだいたいざっと計算したんでよくわかりませんが、美東が100%いくにはこれから40年かかるんじゃないかという気がします。美祿でも30年ぐらいかかるんじゃないかと。これは予算が年々たくさんつきたのでそうじゃないかとも思いますけど、実際にこの地籍調査をやってみて大変なのは高齢者の方しか現地がわからないということが非常に多いわけですね。高

齡者の方も歳を取ると段々現地行かれない、若い人は全然現地行ったこともないということで大変困っておられるわけです。いくら世話人というのを設けてもわけのわからん山に行ったりすると。特に奥が深いところはなおさらのこと。それから不在地主と言ったら言い方が悪いかもわかりませんが、市外に出て全然おられないという方もありますし、第三者に渡っているというところもあります。それから実際に測量していくと山林の中に耕地というのがあります。その耕地があるとこれが耕地だけは必ずきちんと測量しなきゃならないという原則がありますんで、これに大変苦慮されているんです。できるだけ1年でも早くこれを100%に持っていかないと大変なことになるんじゃないかという気がします。今年度の予算が計上されてますけど、私はこれは100%やっていくための予算だろうと思うんです。それをいわゆる第一次的な、これ何段階に分けて、第一段階としては地元の関係にいろいろ行政のほうから指導はありますけど、実際にその行動、主なところに境界杭を打つということに非常に抵抗を感じているんですが、いくらしなきゃならないというのわかっててもなかなかできないと。行政のほうからいついつどこそこ行っただというふうにするからということである程度指導的な立場でやられれば、いやおうがにも境界杭、途中はどうでもいいですから、基本になる境界杭だけは、黄杭だけはきちんと打つような指導体制をやっていくと。例えば100万なら100万の予算の中で、今までは1丁やっておったのをそういうふうな形でやれば私は10丁も20丁もできるんじゃないかと思えます。そういうふうな仕組みの中身を変えてやっていかなきゃですね、これは10年も経ったら境のわからないところばかりになるんじゃないかと思えます。この点を特にこれから気をつけていかにやあならん。早急にこの点については対応していただきたい。それから火災報知器、これはここの項目で申し上げることかどうかわかりませんが、義務付けられておりますので一般住宅にも火災報知器、土木関係のこの項目で対応するような形になるかどうか、これ強制じゃない個人の段階になりますけど、例えば相当な数になります。何千という数になります。そういう場合に一括購入とかそういう形のものを設ければ若干安くなるというようなことも言えるんじゃないかと思えますのでここでそういうような対応が取れるかどうかその2点についてお尋ねします。

副委員長（山中佳子君） 伊藤建設部長。

建設経済部長（伊藤康文君） 大中委員のご質問にお答えします。地籍調査につきましては、具体論言えば大変難しい状況になっております。先程次期国土調査事業

10カ年計画の中で若干のさわりを言いましたが、実際デジタル方位距離計やGPSを使った測量も考えると結構斬新な、抜本的な計画が出されるというのを期待している状況でございます。その辺を待ちまして進捗をいち早く高めたいということで今現在思っております。境界杭を当事者同士で打つのは打ちにくいから全部市が立会とかということも全部進捗に関わることですが、その辺のことも含めましてある程度具体的な調査手法が出るということでそれを期待している状況でございます。地籍調査については以上にさせていただきたいと思います。それと火報の分ですが、先程、ご説明したものについては市が保有している公営住宅だけでございます。それ以外の一般の個人住宅につきましては私のほうでは今の事業はございません。消防のほうで、一応そういうことで。

副委員長（山中佳子君） 大中委員。

委員（大中 宏君） 測量のほうは別として、GPS等大変高度化されてますけどそれに行くまでです。とにかくいわゆる指導していただけないか。強制的でないが一番困るのは地元ですから、やっていただきたいという願いは再三されてますが、実際にはなかなか行動には移せない。ですから市の職員のかたに「あなたのところにはいついつ行きますよ」と、いわゆる基本になるところの木杭だけは打ってくださいよというふうなある程度、言い方は悪いかもわかりませんが、行政のほうから強制的なそういう指導というかそういう体制を強力に進めていただきたいというふうに思います。これはお願いですからいいです。ありがとうございました。

副委員長（山中佳子君） 佐々木委員。

委員（佐々木隆義君） 所管委員長が質問したらちょっとご無礼かと思いますがお許しください。一点だけ簡単でございます。243ページの道路台帳作成委託料250万円。ここを押さえておけばどういうふうに新設改良やったかちゅうのはわかってくるということで、お尋ねです。これたぶん平成20年度に新設改良やった箇所を道路台帳修正うんぬんをされるだろうというふうに思います。金額的に250万円というのはちょっと市とすれば少なすぎるのかなと。委託料ですから結構です。それでどこどこをやったかというのが知りたいということで、一市二町別に新設改良の箇所数、路線名いりません、箇所数が後日で結構ですから公表していただけるかどうかをお尋ねします。

副委員長（山中佳子君） 伊藤建設部長。

建設経済部長（伊藤康文君） ご質問にお答えします。今年度の新設改良の実施箇所については言われるとおり後日になりますが地図を持ってわかるように資料を提出して説明します。

副委員長（山中佳子君） その他に。岡山委員。

委員（岡山 隆君） できるだけ簡潔に、明瞭におこなってまいりたいと思います。土木費の道路橋梁費の件ですけど、247ページの002の地域活力基盤創造交付金事業ということで、8,400万程度入ってます。これで国からの交付金なんですけれども、美祿市にとっては額が少ないなとそのように思っております。そういうことでこれに関しては道路整備工事で6,800万程度入っております。私もいろいろ地域回りましてさまざまな方から道路をつくるのもお金いきますけど、これをメンテナンス、維持管理していくというのも非常にお金がかかるということで、必ずといっていいほどここ舗装して40年経ってかなり舗装がやぶれて大変な状況というのをよくお聞きするわけです。そういったことで、そういったお金がこういった道路整備工事費に今回6,800万程度が使われると思っております。いずれにしてもこれは交付金があったからこそこういった事業ができた。市も非常に助かったと思うんですね。もしこういった交付金がなければ道路維持事業とか一般会計等を出てるみたいですけども、もしこういった6,800万程度の道路整備事業費用が交付金等が入らなかったらどういった経費で賄っていくかどうかその点ちょっとお伺いしたいと思います。

副委員長（山中佳子君） 伊藤建設部長。

建設経済部長（伊藤康文君） 岡山委員のご質問にお答えします。247ページの一番右節の下にある地域活力基盤創造交付金事業、これは沖田1号と秋吉小学校線を充当しておると言いましたが、これにつきましては先程、説明の中にも言いましたが、旧地方道路整備臨時交付金事業でやってるものでございます。この事業がなかったらどうするかということですが、一応、道路関係の補助メニューとしまして一般の要件はあるわけですが、その要件に填まって財源的に取れるものはいろいろあるわけですけど、それにできるだけ充当してやるということになります。それ以外の道路整備等については過疎債等起債等で対応することになりますが、今回の21年度の予算は当然21年度の予算ですが、当初21年度にやる予定の工事を20年度に位置づけまして繰り越した事業がございます。従ってこれの件数等で若干少ないなと思われてると思いますが、実際には20年度補正で繰り越した分、例えば

道路維持につきましては、先程21年度の分には5件と言いましたが、繰り越したものが45件ございます。それ等につきましては、先程岡山委員言われました単独事業を臨時交付金で対応できるもので大変助かっておる状況でございます。そのように道路の要件にはまって補助メニューをできるだけ取りまして財源獲得に努めてやるしかないということで認識しております。

副委員長（山中佳子君） その他質疑はございませんか。質疑なしと認め質疑を終わります。

次に消防費を議題といたします。執行部より説明を求めます。

坂田総務課長。

消防本部総務課長（坂田文和君） それでは消防費の説明をいたします。258ページをお願いいたします。9款・消防費、目1の常備消防費でございます。予算額4億5,794万8,000円を計上しております。前年比1,734万1,000円の減額でございます。特別な事業はございません。通年経費の計上でございます。財源内訳に諸収入1,408万7,000円があります。これは高速自動車道救急業務の支弁金でございます。次に2枚めくっていただきまして262ページをお願いします。目2の非常備消防費でございます。予算額7,379万1,000円を計上しております。前年比601万円の減額でございます。これは主に消防団経費でございます。特別な事業はございません。通年経費の計上でございます。美祿市消防団員数は、定員1,000名に対しまして実員数はきょう現在928名でございます。次に264ページをお願いします。目3の消防施設費でございます。予算額2,983万7,000円を計上しております。前年比2,368万4,000円の増額でございます。新規事業といたしまして防火水槽4箇所の設置工事がございます。正式名は耐震性の貯水槽と言いますけれども、40トンの地下式の水槽でございます。この事業の財源内訳でございますが、設置基準額の50%の国庫補助を受けまして1,047万2,000円、地方債1,510万円を充当するものでございます。次に目4の水防費でございます。予算額34万5,000円を計上しております。前年比は1万6,000円の減額でございます。以上、款消防費の総額を前年度より31万7,000円増額いたしまして5億6,192万1,000円とするものでございます。以上、消防費の説明を終わります。

副委員長（山中佳子君） 坂田総務課長より説明が終わりました。それでは質疑を行います。質疑はございませんか。山本委員。

委員（山本昌二君） 消防署の幹部の方が来ておられますので、ここでちょっと最近各学校回ったときに消防署の職員の方が子供たちに火災が発生したときの防火訓練併せて避難訓練をいろいろ指導されておられるわけです。特に地震につきましては毎年やっておられますし、火災も毎年やっておられますが、そこで非常に子供たちがこの火災訓練について非常に熱心に消防署の職員の方のご指導のもとで頑張っておる姿を見たときに、非常に感動した場面がたびたびあります。子供が帰ってお父さん、お母さん、或いはじいちゃん、ばあちゃんにきょうは、こういうことがあったと、或いは消火器があるかという質問が家庭であって、2、3軒私のほうへ電話があって話があったんですが、やはり消火器の設置について消防署の職員の方の対応で非常に効果が上がっておるということで、まず消防署の方々の日常の子供たちに対する対応についてお礼を申し上げたいと思います。それでお聞きしたいことは、この各学校での訓練をずっと続けていただきたいというふうに私思っておるんです。というのは防犯の関係もございますけど、やはり何をおいても火災というのが身近で起きる可能性が一番高いものであります。どうかこの辺についてずっと続けていただきたいとがその辺のちょっとご回答をいただきたいと思えます。以上です。

消防長（金子正治君） 山本委員さんのご質問にお答えします。現在学校等の避難訓練を含めた防火指導につきましては、学校等の要請に基づいて消防署のほうから出向くようにしております。これからもずっとそのような方向でいきたいと思っております。まずこれが火災予防運動のときに集中をして同じ日、同じ時間というようにすることもございます。そういった場合は、日にちを変えていただくとか、そのいろいろな調整をさせていただきましてできるだけ指導には行くようにしております。これからもそういうことでございます。以上です。

副委員長（山中佳子君） 山本委員。

委員（山本昌二君） ということでありますので、教育長さんはじめ教育委員会の課長さん方おられますが、どうかこうしたこと、子供たちが現場で非常に真剣に対応やっておることにつきましては、学校からもいろいろ報告あると思えますけど、現場に携わった第三者が見て非常にすばらしいことと思えますのでよろしくその辺を消防署と連携取りながら子供たちへ火事の恐ろしさ、マッチの恐ろしさ、ライターの恐ろしさというのを教えていただきたいというふうに思えます。回答はよろしくをお願いします。

副委員長（山中佳子君） 福田教育長。

教育長（福田徳郎君） 山本委員のご要望でございますが、各学校におきましては、今ご指摘がありましたような訓練につきましては必ず行うようにしておりますし、行っております。これも皆さま方の、指導していただく方々のおかげだと思っております。これからも十分指導していきたいと、訓練をそういったことを行っていきたいと思っております。

副委員長（山中佳子君） その他に質疑ありませんか。大中委員。

委員（大中 宏君） 2点ほどお尋ねします。まず第一は消防団員の件ですけど、1,000名に対して928名ということですけど、この928名もいろいろ話を聞いてみますと、実稼働人員というのは、はるかに少ないということを知っています。特に昼間と夜の関係もありますが、実際に年齢的に考えてみても耐力的に考えてみても非常に無理があるなというようなことも思います。仕方なしに定員が15なら15、20なら20という班編制ですね、班とか部とかどういうふうになっているか私わかりませんが、無理をして定員確保を図られておられるというのが実情なんです。若い人がなかなかボランティア精神というのが非常に最近欠けているという面に入ってこられない。実際日頃の訓練をしようにもまた実際に事件があったときでも出動しにくいと。特にこれから先、異常気象によって自然災害というのが非常に増えてくると思います。また美祿市内は、現在ないのが幸いですけど、年寄りが行方不明になったりというような話も聞きます。以前はあったこともありますけど、そういうふうな場合に捜索活動というのは消防団員が出なきゃならないと、実際に活動ができないわけですね。ひとつ若い者もできるだけ入ってもらうように、団員の皆さん大変苦労されてるんですけど、ひとつこの辺をよくご理解いただいて一人でも多く元気な団員さんが入って来られるような体制づくりをひとつこれから進めていっていただきたいと。それから班編制についてもこれちょっと若干無理があるんじゃないかというふうな気がします。昔のままずっとそれが継承されてますので、この班編制についても、ある上層部のほうからかなりこの班編制をしてもらいたいという意見が強いわけです。今のような非常に小さい、実際小さいほうがいざというときに稼働率がいいかもわかりませんが、そういう面もある程度考えていく必要があるんじゃないかというふうな気がしますけど、この点どういうふうにご考えておられるか。今後そういうふうな方向で向けて行かれるのかどうか。それから2点目に先程言いましたけど、火災報知器。これは行政がそういうふうな商業

的な行為を斡旋するというのは非常に難しいかとは思いますが、かつては消火器等についてはやられたことがあります。これは美東時代ですけど。そのようにこれ義務化されますので、できれば一番関係のあるところの消防のほうで美祢市内の対象全戸を取り纏めていただければ1円でも安く斡旋をします。そうしないとこれから先かなりこういうふうな関係に関して詐欺的な行為も出てくると思います。またチラシ等、今、電気屋さん等が入ってますけど、はたしてどれがいいかとか、どれを実際に自分方で使ったらいいのかなというような先程、安富委員からありましたけど、電池式では非常に交換がしにくいと、高い所に付けられますので実際に今度寿命が来たときでも高齢者が対応できんというようなことがあると思いますので、いろんな面でご指導いただきたいと、そういうふうな面についてもどういうふうにご考えておられるか、この2点についてご回答をお願いします。

消防本部総務課長（坂田文和君） 大中委員のご質問にお答えいたします。消防団組織の再編成の件でございますけど、今のところ組織の再編成の計画は持っておりません。これは慎重に対応しないといけないと思っておりますが、団員の確保が難しいことから部隊の運用が難しいという声は聞いております。その声には早い時期に対応していく所存でございます。基本的な考えは消防団員を減らさない、消防力を極力落とさない、住民の協力を得られる、その3点を原則に協議をして参りたいと思っております。以上でございます。

副委員長（山中佳子君） 田畑予防課長。

消防本部予防課長（田畑龍男君） それでは住宅用火災警報器についてご説明申し上げます。この住宅用火災警報器は平成16年に消防法が一部改正されまして一般住宅にも設置が義務付けられております。法の執行にあたりましては平成18年6月1日施行ということで、6月1日以降に新築された住宅にはもうこの住宅用火災警報器はついております。既存の住宅につきましては、その猶予期間といいますが、設置の期限というのは各市町村の条例で定めるということになっております。当美祢市におきましては、平成23年の6月1日までに設置しなさいという形で謳ってあります。それで消防といたしましてもこの既存の住宅につきまして普及率がどのくらいかというのをいろいろなイベント、アンモナイトフェスティバルとか福祉の市とかいろいろな市の関係のいろいろな行事等があるときに消防も顔を覗けましてそこで来られた方にアンケート等の調査を行っております。それでだいたいこれはほんとに概算になるんですが、約現時点で20%ぐらいの普及率です。ですから

これも県下だいたいあまり特出して多い市町村というのは特にございません。だいたい同じような現在普及率のようです。県のほうといたしましても先程、大中委員さん言われましたように一括購入、共同の一括購入というような形の方法を、マニュアル化等を今考えて、とにかくあと2年少々しかありませんので普及をさせるということでマニュアル等つくっております。消防におきましてもそのマニュアルを利用しまして各住民の方に一括購入等これから推し進めていこうという考えを持っております。なお、これは先程、委員さんのほうのお話にもありましたけど、行政がこれを窓口にということはちょっと難しい部分がありまして、今県のほうが示しておるのは各自治体単位、自治体で取り纏めて一括購入をするような案をつくっております。ですから自治体のほうで購入の業者さん等を設定していただいて、選んでいただいて、一括購入をして少しでも安く購入をするというような形を示しております。すいません、自治体ではなく各自治会です。それと先程、安富委員さんのほうから住宅用火災警報器の電池の寿命ということでちょっとお話ありましたけれど、今販売しております住宅用火災警報器については電池の寿命は約10年持つということでございます。業者のほうの話によりますと電池の寿命10年あるわけなんですけど、10年経てばその器械本体の感知の機能の低下というようなこともやはりありますから10年を目処に取り替えていただくというような考えというようなことも言っております。以上でございます。

副委員長（山中佳子君） その他に質疑ありませんか。三好委員。

委員（三好睦子君） 265ページの消防施設経費の中で防火水槽が設置されたと言われましたが、何件か教えていただきたいのと、それから出初め式ですが美祢だけではなく各地域に回ってほしいという要望がありました。今年も美祢市でありましたがそういう要望を聞きまして今年を思い出したんですが、美東の場合で会場があるんだろうとか、いろいろ考えましたら会場ありますし、川も美東の道の駅の河川が立派な川があるので十分できるのではないかと思います。是非とも住民の方が出初め式の勇壮な姿を見たいと、そういうのをみたいから何とか各地で回ってほしいという要望がありましたので是非とも合併をしたといえども地区へ回っていただきたいと思いますが、その点についてお尋ねをいたします。

副委員長（山中佳子君） 坂田総務課長。

消防本部総務課長（坂田文和君） 三好委員の質問にお答えいたします。耐震性の貯水槽、防火水槽の場所ということで、これはまだ採択されておられませんので場所

を申し上げるわけには、今現時点はまだできませんのでよろしくお願ひいたします。よろしいでしょうか。それと出初め式の場所の件でございますけれども、今の美祢市の規模でやるとなれば駐車場、そういったまた団員が入る会場、そういったことで今の規模でやれば難しいと思いますけれども、そういった要望が多ければそういった町民の声も耳を傾けていきたいと思ひますけれども、この美祢市役所の駐車場いっぱい使って狭いくらいですからその辺がなかなか難しいかなとは思ひております。よろしいでしょうか。

副委員長（山中佳子君） 三好委員。

委員（三好睦子君） 4箇所の中で私が知りたいのは旧美東時代に大石地区から防火水槽つくってほしいという要望がありまして合併前に要望したんですが、これが1箇所だけでは補助金が出ないということで来年度にまわると言われまして、合併してからになるだろうということでしたが、合併をしまして再度要望しましたら21年度予算の中に入れたいというのを聞きましたのでその大石地区が入っているかなと聞きたかったのですがまだ公表ができないと言われればもうよろしいですけど、是非お願ひをいたします。

副委員長（山中佳子君） 回答はよろしいですね。その他に質疑はございませんか。柴崎委員。

委員（柴崎修一郎君） 今の三好委員と同じ質問なんですけど、264ページの目3の予算が昨年より2,360万ぐらい増えております。これ地下防水基が4基というから4で割ったら1基が600万円ぐらいと判断していいわけですか。

副委員長（山中佳子君） 坂田総務課長。

消防本部総務課長（坂田文和君） 柴崎委員の質問にお答えします。だいたい1基が600万円平均でございます。

副委員長（山中佳子君） 柴崎委員。

委員（柴崎修一郎君） それで確か縦横が10何メートル、これに地下に埋めるわけですよ。これは土地は全部寄附でしょ。消防署が買ってそれやるってわけじゃないでしょ。そのあと埋めるわけですが、その上というのは使えんわけですよ。

副委員長（山中佳子君） 坂田総務課長。

消防本部総務課長（坂田文和君） 耐震性貯水槽の場所の件ですけど、これは一応どこに埋設しても問題ないんですが、一応土地の提供というのを条件にしております。そしてそれがどうしてもかなわないときは市道・県道といったところにも埋設

をいたします。それからその上は車を通っても問題ない強度はあります。以上です。

副委員長（山中佳子君） その他に質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

副委員長（山中佳子君） 質疑なしと認め質疑を終わります。それでは次に教育費を議題といたします。執行部より説明を求めます。国舛教育委員会事務局長。

教委事務局長（国舛八千雄君） それではご説明申し上げます。10款の教育費・教育総務費でございます。教育委員会費の001の教育委員会経費342万2,000円でございます。上から4行目になりますが報償金ということで3万円ほどあげております。これは教育委員会の点検評価を行いますこれの学識経験の知見を得るための報償金ということでございます。

副委員長（山中佳子君） 田中学校教育課長。

教委学校教育課長（田中円城君） 続きまして266ページ、267ページをお開けください。説明欄の002でございます。教科用図書採択事業費、9万1,000円でございます。教科書4年間に一遍変わりました来年度は中学校の採択の時期となっておりますのでそれに関する費用でございます。新規事業となっております。以上です。

副委員長（山中佳子君） 国舛教育委員会事務局長。

教委事務局長（国舛八千雄君） それでは270,271ページをお願いいたします。高等学校費の私学振興補助金でございます。1,440万でございますが、これは私立の成進高等学校の教育の振興を図るための運営に要する経費に対して補助金を交付するものでございます。

副委員長（山中佳子君） 田中学校教育課長。

教委学校教育課長（田中円城君） 268ページ、269ページをお開けいただけますか。目3の指導費でございます。説明欄の001・指導経費でございます。例年と大きく変わっておりますのはその001の下から2行目に美祢市学力向上対策プロジェクト事業委託料というのがございます。委託料としましては45万9,000円でございますが、事業としましては236万7,000円でございます。その事業の内訳としましては、その下に教育研究会委託料がございます。120万。この120万と事業費委託料の45万9,000円と、消耗品費の94万6,000円の中にCRTの調査費、学力の調査費の資料の70万8,000円が入ってお

りましてこの消耗品の70万8,000円と委託料の45万9,000円そして教育研究会の委託料120万これを合わせたもので対策プロジェクト事業が236万7,000円というものでございますのでご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。それ以外の指導経費については例年どおり変わっておりません。次の説明欄の002・学校職員関連経費でございます。その欄の中の手数料が299万8,000円となっておりますが、これは教職員の健康診断に伴う費用でございますので例年と変わっておりませんが、そういう内容でございます。次の003番の学校評価改善事業につきましては市単独の事業でございます。15万3,000円。学校評価を推進しておりまして年に一遍市内統一のアンケート調査を行います。その調査に伴います費用が15万3,000円ということでございます。次に270ページ、271ページをお開けください。目の5番目の外国青年英語指導事業費でございます。説明欄の001番外国青年英語指導事業費、俗に言うALTの関わります費用でございます。2名のALTの費用で941万4,000円。これは例年どおりの内容でございますが、減額になっておりますのは本年度は途中まで3名でございましたが、来年度は年度当初から2名ということでの減額でございます。以上でございます。

副委員長（山中佳子君） 国舛教育委員会事務局長。

教委事務局長（国舛八千雄君） 同じページでございますが、小学校費の学校管理費001の小学校管理費の臨時職員の賃金391万2,000円でございます。これにつきましては、これまでは事務の臨時職員が3校でございましたが、来年度からは4校になるものでございます。以上でございます。

副委員長（山中佳子君） 田中学校教育課長。

教委学校教育課長（田中円城君） 272ページ、273ページでございます。説明欄、002・学校保健事業についてでございます。これは医師の報償費等でございますが、これは児童・生徒の健康診断に伴う医師の報償費等でございます。内容的には本年度と変わっておりません。次に274ページ、275ページをお開けください。目2教育振興費でございます。説明欄001・教育振興経費、この内容も本年度とほとんど変わってはおりませんが、真ん中辺に交流学習促進委託料というのが38万円で計上してございます。小学校間の交流事業にかかる経費で今年度は倍増しております。交流回数も3回から6回と倍になりますので費用も倍にさせていただいております。それからあとの内容につきましてはほとんど変わりませぬの

で省略させていただきます。276ページ、277ページをお開けください。説明欄の002・特別支援学級支援事業でございます。これは城原小学校に介助員を配置するための費用でございます。003番、やまぐち学校教育支援員の活用促進事業、これは県の2分の1補助、50%補助でございます。発達障害等の通常学級に補助員を配置するものでございます。就学援助費、これが1,076万8,000円計上しております。これもだいたい本年度と同じ人数よりも少し多めに就学援助費等計上しております。通学費補助事業、市単独事業でございますが、これは本年度どおりでございます。006番の小学校英語活動事業、これが市単独の事業でございます。22校の小学校に非常勤講師を派遣するものでございます。150万円となっております。007番の英語活動実践研究事業、これは文部科学省の指定事業でございます。100%補助事業でございます。21年度は大嶺小学校と大田小学校が指定を受けまして研究を進めることとなっております。008番の豊かな体験活動推進事業につきましてはこれは新規事業でございます。文科省の100%補助事業、指定事業でございます。城原小学校と麦川小学校が、これは農業体験を行います。一週間農家に宿泊をしまして一週間通して農業体験を行うという新規事業でございます。それにかかる費用が180万となっております。

副委員長（山中佳子君） 國舛局長。

教委事務局長（國舛八千雄君） それでは同じページですが、目3の学校施設整備001の学校施設整備経費、設計委託料1,145万4,000円でございます。これは耐震補強工事のための実施設計の業務の委託料でございます。伊佐小学校の校舎の管理棟、川東小学校、城原小学校の屋内運動場の耐震化工事の実施設計業務を行うものでございます。次のページをお願いします。278、279ページですが、施設整備工事費の450万円でございます。これにつきましては施設整備は要望もたくさん出ておりますが、浄化槽の整備あるいは校舎等の雨漏り等の緊急度の高いものから工事をしていきたいというように考えております。そして次に中学校費の学校管理費でございます。中学校管理経費の4,807万7,000円でございます。これにつきましては主なものとしたしましては光熱費が1,485万6,000円ありますし、夜間警備これが中学校の8校分の夜間の警備等でございます。それでは1枚めくっていただきまして教育振興費でございます。001の教育振興経費2,674万でございますが、これは一番下に掲げておりますが電算機器

の借上料ということでパソコンの借上料でございます。1枚めくっていただきましたら教材備品ということになっております。350万1,000円。これはクラブ備品、あるいはパソコン等の備品でございます。学校に配算するものでございます。下の教材備品これは理科備品等を含みます教材備品373万5,000円ということになっております。そして次に3の学校施設整備費の001の学校施設整備費、設計委託料でございます。1,228万1,000円でございます。これにつきましても耐震補強工事のための実施設計業務を行うものでございまして美東中学校の校舎、これのA棟・B棟そして秋芳南中学校の屋内運動場の耐震設計業務を行うものでございます。次に1枚めくっていただきまして284ページ、285ページをお願いいたします。幼稚園費でございます。001の幼稚園経費2,017万8,000円でございます。そのうちの幼稚園就園奨励費補助金、これが1,771万4,000円でございます。これにつきましては保護者の経済的負担の軽減と公立幼稚園と私立幼稚園との保護者負担の格差是正を目的としまして幼稚園の入園及び保育料を減免するものでございます。次に私立幼稚園の特別支援教育費補助金19万6,000円でございます。これにつきましては私立幼稚園の特別支援の振興を図るために特別支援の幼児が在園いたします幼稚園に対して補助をするものでございまして一人あたりが9万8,000円ということで2人分の19万6,000円を補助するものでございます。次に幼児教育の振興補助金の226万8,000円でございます。これは市内の私立幼稚園連盟が行っております幼児教育の振興を図る事業に要する経費に対する補助でございまして、常勤職員の給与を補助するものでございます。一人あたりが11万4,400円を補助することになりまして今、常勤職員のかたが12人いらっしゃいまして136万8,000円の補助となっております。更には施設整備に対する補助ということで1幼稚園に45万円の補助です。こうすることで2つの幼稚園に90万円の補助をいたしてございまして合計が226万8,000円ということによります。財源内訳でございますが、補助は国庫補助が3分の1です。3分の2につきましては市の負担ということになっております。そういうことで国庫支出金が590万4,000円ということになっております。そしてこの国庫支出金につきましては幼稚園の奨励費補助金に対する補助金でございます。以上でございます。

副委員長（山中佳子君） 田中学校教育課長。

教委学校教育課長（田中円城君） 学校教育関係で若干前に帰りますが、280ペ

ージと281ページをお開けいただけますか。1の学校管理費の中の説明欄の002・学校保健事業でございます。445万5,000円これは中学校生徒の健康診断に要する費用でございます。本年度どおりでございます。2番目、目の2教育振興費の001番教育振興経費、この内容については変わったところだけですが、主なところだけをご説明申し上げますと、283ページでございます。002番のやまぐち学校教育支援員活用促進事業、県2分の1補助事業でございます。これは中学校35人学級化に伴います非常勤の配置でございます。大嶺中学校に非常勤2名を配置する費用でございます。003番不登校生徒支援事業、国・県との2分の1事業でございます。これは非常勤講師の配置、不登校生徒が出ましたら非常勤講師を家庭に配置して家庭での学習を支援するという制度でございます。004番特別支援学級支援事業、これは伊佐中学校と秋芳北中学校へ介助員を配置しますその賃金でございます。005番就学援助事業、就学援助費、これにつきましても本年度よりも若干名増やして768万1,000円計上しております。特別支援教育就学奨励費につきましては国の2分の1補助事業となっております。006番遠距離通学費補助事業、これは本年度と変わっておりません。007番問題を抱える子ども等の自立支援事業、国の100%補助事業でございます。これは本年度若干名称が変わっておりますが、学校の安心・安全の学校づくり、不登校等の子どもに対する支援員の派遣事業でございます。以上でございます。

副委員長（山中佳子君） 杉原社会教育課長。

教委社会教育課長（杉原功一君） それでは次のページをめくっていただきまして284,285ページでございます。社会教育費、社会教育総務費、002番社会教育総務経費は社会教育全般に伴う経費でございます。次のページをお開きくださいませ。一番上でございますが、これは子どもいきいき体験事業の補助金でございます。これは平成20年度においては子ども交流事業の助成金ということで出ておりましたが、子どもたちの広域的な交流や体験活動を支援するもので平成21年度は山梨市の子どもたちを迎え交流や体験事業を行う予定としております。60万円を計上しております。続きまして次のページをお開きください。008番放課後子ども教室運営事業でございます。子どもたちが地域社会の中で豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するため、子どもたちの安全・安心な活動拠点、居場所づくりを進める事業でございます。事業費として517万9,000円を計上しております。歳入のほうをご説明いたします。284ページにお戻りください。県支出

金といたしまして369万8,000円ございますが、このうちこの放課後子ども教室事業に伴います事業経費の3分の2にあたります345万2,000円の歳入を計上しております。それでは289ページにお戻りください。009番秋吉台国際芸術村運営経費でございます。これは同施設の管理運営を行っております財団法人山口県文化振興財団に対して支払う指定管理料でございます。平成18年度より指定管理が始まっておりまして平成21年度につきましては4年目となっております。事業費といたしまして2,907万8,000円を計上しております。続きまして公民館費、002・公民館管理運営経費でございます。次のページをお開きください。これは市内13の公民館の管理運営等に伴う経費でございます。主なものといたしまして光熱水費などの施設の維持管理にかかる費用がほとんどでございますが、嘉万公民館の屋上漏水補修工事や秋吉公民館のエアコンの取り付け工事などの施設工事費といたしまして366万2,000円を計上してございます。次のページをお開きください。図書館費でございます。002・美祢図書館経費でございます。これは新規事業といたしまして電算システムの保守委託料、46万4,000円と電算機器借上料の中ですけど図書館システムリース料といたしまして135万9,000円を計上してございます。これは平成13年度に導入いたしました現行のコンピューターシステムが老朽化いたしまして運営に支障を来しているため新たなシステムの導入に伴う経費でございます。なお、21年度については年度途中を予定しておりますので年額の半分の金額を計上しております。リース料といたしましては5年契約となりますが、1,360万円を見込んでおるところでございます。それでは次のページをお開きくださいませ。市民会館費、市民会館管理運営経費でございます。これは光熱費等の施設管理運営に伴いますものが主となっております。総額といたしまして2,092万9,000円を計上しております。

副委員長（山中佳子君） 池田文化財保護課長。

教委文化財保護課長（池田善文君） 296,297ページをお願いします。目5の文化財保護費であります。新規事業といたしまして297ページ下から16行目になるかと思います修繕料として514万5,000円を計上しております。これにつきましては美祢図書館前にあります蒸気機関車の修理、補修料でございます。この事業は5年におよそ1回開催してきております。次に298,299ページをお願いします。目6の文化施設費でありますけど、この中で301ページをお願いします。説明004の長登銅山文化交流館管理経費でございますけども、これ

はこれまでの長登銅山跡資料館管理経費が名称変更になったものであります。979万6,000円の中に新規事業といたしまして本年4月24日開館の予定でございますけれども、開館式典代として23万円、新たな入場券、パンフレット等の印刷代として92万円を計上しております。なお、これにつきまして歳入が若干ございます。恐れいりますが、298ページにお戻りいただけたらと思います。298ページのその他の財源でありまして使用料及び手数料、諸収入合わせて421万4,000円を計上しておりますけれども、この中で長登銅山文化交流館の収入見込として327万5,000円を見込んでおります。続きまして302,303ページをお願いします。目7の秋吉台科学博物館費でございますけれども、秋吉台科学博物館は21年度が開館をして50周年目にあたります。これの記念式典費用として秋吉台科学博物館費の1,042万6,000円の中に82万2,000円を50周年記念費用として新規事業として計上しております。以上であります。

副委員長（山中佳子君） 杉原社会教育課長。

教委社会教育課長（杉原功一君） 続きまして304ページ、305ページでございます。生涯学習まちづくり推進事業費、このうち001番生涯学習推進事業ということで、これは生涯学習のまちづくり推進と啓発のための協議会等運営経費や生涯学習推進大会に伴う経費で245万円を計上しております。続きまして次のページをお開きくださいませ。002番市民大学講座の運営経費でございます。これは市民の教養を深めるため文化人を招きまして講座を開くものでございます。今年度につきましては一回の開催を計画しておりまして事業費は100万円を計上しております。続きまして花づくり推進事業、001番花づくり推進事業でございます。これにつきましては春と秋の市民総社会参加活動において花の苗を配置し市内地域花壇の花づくりを進める従来の花いっぱい運動にこの度、新たに観光の振興を目的といたしました花壇等の整備事業を実施するものでございます。秋芳町・美東町地域の観光地周辺、また道路沿線などを中心に花壇等を整備していくものでございます。事業費としては2,000万円を計上しております。

副委員長（山中佳子君） 杉本体育振興課長。

教委体育振興課長（杉本伊佐雄君） それでは保健体育費につきましてご説明をいたします。資料の310,311ページでございます。目の1保健体育総務費、1,249万6,000円を計上しております。主な事業といたしましては昨年度合併によりまして新たに第1回として開催しております市民体育祭開催委託料72

万円。駅伝競走大会開催委託料107万円。それから下のほうから3番目ですが、名称が変わりましたので訂正をお願いいたします。秋吉台カルスト高原マラソン大会とございますが、美祢秋吉台高原マラソンというふうに名称を変更いたしました。この負担金が220万円でございます。続きまして目2の体育施設費でございます。7,442万5,000円を計上しております。財源内訳としまして使用料及び手数料ということで保健体育の使用料607万7,000円、それから教育雑入、これは温水プールの教室の授業料ですが1,205万円。合計の1,812万7,000円を充当することにしております。比較といたしまして510万の増でございますが、これの主なものとしたしましては市民球場経費は変更ございません。一枚めくっていただきまして313ページ、002・温水プール運営経費というところで下から2番目の施設整備工事、350万円。これにつきましては温水プール多目的トイレ設置工事ということで予定をしております。現在体育施設で多目的トイレがございますのがスポーツセンターと秋芳体育館でございますが、温水プールにございませんので、この多目的トイレを設置する予定にしております。それからプール経費に変更はございません。次のページの315ページ、運動公園経費、運動広場経費、体育館経費も変更ございません。一枚めくっていただきまして317ページ、007・武道館・弓道場・アーチェリー場経費でございます。これの下から2番目施設整備工事ということで140万円を計上しております。これにつきましては、美東弓道場床の改修工事でございます。中学生、一般と利用の多いこの弓道施設の床が破損しておりますのでその床の改修工事ということで予定をしております。以上です。

副委員長（山中佳子君） 國舛局長。

教委事務局長（國舛八千雄君） 同じページでございますが、3の給食施設費の002の給食管理経費でございます。一枚めくっていただきまして下から5行目になりますが施設整備工事でございます。これにつきましては衛生管理上の面から手洗い器等の改修を行うというものでございます。以上でございます。

副委員長（山中佳子君） 以上で説明が終わりました。この際暫時1時10まで休憩をいたします。

午後12時14分休憩

午後13時10分再開

副委員長（山中佳子君） 休憩前に続き会議を開きます。それでは質疑を行います。質疑はございませんか。萬代委員。

委員（萬代泰生君） なかなか名前を覚えてもらえなくて残念なんですけれども、教育費の関係で2点ほど質問したいと思います。一つは269ページの中程に書いてあります今年の新規事業として美祢市学力向上プロジェクト事業委託料、このプロジェクト事業が新規事業として今年度取り上げられておりますが、これは私、昨年の12月に学校評価システム事業の関係で質問をした際にお答えをちょっといただいたと思いますけど、簡略にもう一度どのような内容で学力向上推進を図っていくとされるのか簡単で結構ですからご説明をいただきたい。それからもう一点は316ページ、317ページの給食設備費でございます。昨年の3月に合併をいたしました。4月から秋芳町・美東町のそれぞれの調理場の再編成をいったら、大げさかもわかりませんが、職員配置の異動も行ったように思っております。各調理場に正規の職員が何名で配置されておられるのか、1人なのか2人なのか、そこら辺をはっきりとお答えをいただきたいと思います。やはり子供たちの食を預かる給食調理場において正規職員は最低1名はおられるとは思いますが、そこら辺の正規職員さんとパート職員さんの構成がどのようになっておられるのか簡単にお答をいただけたらと思います。以上です。

教委学校教育課長（田中円城君） 萬代委員さんのご質問にお答えを申し上げます。学校評価システムを活用した家庭・地域との連携による学力向上対策システム事業についてでございます。本事業につきましては保護者や地域住民からなりますプロジェクト会議をまず設置しようと思っております。この会議の中で美祢市の学力向上に向けてのシステムがうまく機能しているかどうかご意見を賜りたいと。そのご意見に基づきまして、学力向上につきましのシステム化を図っていくということでございます。主な内容につきましては5点ありますが、そのうちの1点が学力の検証でございます。学校の教職員は平素の授業でよく頑張っていると思いますが、授業で頑張っている、頑張っていると言うだけでは学校の説明責任は果たせませんので、どう頑張っているか数値化を図りたいと思っております。ですから小学校1年生から中学校3年生まで定期的に学力調査を行いたいと。小学校で一遍CRTの検査、中学校で一遍CRTの業者検査でございますがおこなって、全国との比較を図りたいと。各その中間的な各学年の学力につきましては教員が集まってカルスト検定、漢字検定、計算検定というドリルをつくってそれを市内一斉に実

施して年度の末にどれくらい成果があったか数値化を図っていきたいと思っております。それから学校評価に基づきまして、年に一遍、市内一斉に統一アンケートをおこないますが、このアンケート調査結果から保護者の意見を十分お聞きして各学校が今の状況でいいかどうか反省をして、その調査結果に基づいて学校を改善していくというそういった2つ目の視点で学校改善を図っていきたいと思っております。3つ目の視点としまして学力を上げるためにはやはり家庭学習、基本的な生活習慣が確立しないとこれは達成できませんので、基本的な生活習慣も確立できるように保護者と学校と教育委員会が連携しましてそのシステム化も図っていきたいと思っております。そういった諸々のことを考えながらこれから2年間取り組んでいきたいと思っておりますので何卒ご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

副委員長（山中佳子君） 國舛局長。

教委事務局長（國舛八千雄君） それでは萬代委員さんのご質問にお答えいたしたいと思っております。給食調理場の正規職員そしてパートの現状はどうかということですが、共同調理場が8箇所ございます。そして単独校が2校あるわけですが、8校の調理場につきましてそれぞれ正規の職員さんが調理員さんがいらっしゃいます。1人ずつ。大嶺につきましては2名ほどいらっしゃる状況でございます。パートにつきましては3名からそれぞれ4名という現状でございます。大嶺につきましては6名のパートさんがいらっしゃいます。そして自校式校につきましてはそれぞれ調理員さんはいらっしゃいますが、鳳鳴小学校につきましては今、臨時で対応をいたしております。そしてパートさんも2名で対応しております。そして淳美小学校にはパートが1名で2名の対応、あと赤郷と綾木小学校は現在パートがいないという状況になっております。以上でございます。

副委員長（山中佳子君） 萬代委員。

委員（萬代泰生君） ありがとうございます。今の説明で何となくわかったようなんですけれども要するに今までの学力向上プロジェクト事業については、あまり試験を何度も何度もするような印象に先程聞こえたんですが、こちら辺はまた言葉の使い方等も大事になってこようかと思っておりますが、要するに子供たちの学力を絶えず把握していきながら更に外部、それから内部からのいろんな指導・助言を受けながら学力向上対策としてどう反映していくかということの研究していこうということですね。でよろしいんですか。そういったことで頑張っていたいただきたいと思います。それから先程給食調理場のことを申し上げましたけれどもやはり調理員さんも

なかには一人で大変不安を抱えておられる人もおるやに聞いております。そういったことで総務課のほうからもいろいろと指導なんかもして、調理場で事故のないようにご指導・配慮いただけたらというふうに願っております。やはりこれまで正規職員が2名体制であったように思います。そのときにはやはり1名では大変不安ですという言葉も聞いたこともございます。そうは言いながらも今の財政事情の中から1名でということからスタートしてからもうすぐ1年経とうと思っておりますが、事故もなくそれぞれ精一杯の努力をして健全な運営に努めておられると思いますのでたまには調理場を覗いて激励などもしていただくことも必要かなと思います。以上で終わります。

副委員長（山中佳子君） 他に質疑はございませんか。三好委員。

委員（三好睦子君） ページが289ページなんですが、秋吉台国際芸術村運営費で指定管理委託料とありますが、これは県の施設であって岩国の場合、シンフォニア岩国とこの施設が同じような形態なんですが、岩国につきましては県が委託料を出していると、そしてそのような関係でこの秋吉台国際芸術村の運営費も、全国からの著名な芸術家の人や文化人の方が来られているいろいろな開催されていますが、そういう面からみて地元だけの利用ではないので県からの負担金というのですか、それをたくさんにいただくようなことはできないかと県に要望して、いくらかでも市の委託料を安くして負担を少なくしてもらいたいようなことは要望していただけないかなと思いますが、いかがでしょうか。

副委員長（山中佳子君） 杉原社会教育課長。

教委社会教育課長（杉原功一君） 只今の三好委員さんのご質問にお答えいたします。この負担金につきましてはなんですが、この秋吉台国際芸術村につきましては建てるときの経緯もございまして、だいたい資産が何割、何割という関係がございましてその中でだいたい8割2割という割合で決まっております。ですので県のほうとしましては、21年度になりましたら市が2,900万円ということになりますが、県となりましたら1億6,300万というふうな形で8割2割だいたいの金額で分けてございます。ですから当初の建てたときの経緯もございまして資産とか土地とか建物の件でございまして、それで分かれておりますのでこのままで請けます。

副委員長（山中佳子君） その他に。大中委員。

委員（大中 宏君） 大変全般的に厳しい財政状況の中で学校教育費は昔からとか

く削られやすいというか、当初要求よりかなり削られてる面が多いんじゃないかと思います。それと関連して3点ほど質問したいと思いますが、各学校からそれぞれ当初要求額というのが出てると思います。それでかなりカットされていると。私学校聞いて回ってみますとあれも削られた、これも削られたと。中には5年10年と続けて要望してるけど未だに実現されないと、子供の教育にも非常に支障を来しておると切実なものもあるわけですが、どうしても各学校とのバランスもとらなきゃならないというような面もあると思いますけど、当初要求額から減額されて決まった金額かなり差があると思うんですけど、一体どのくらいの差があるじょうかと。その落とされた中にはかなり大事なものもあるがこれを21年度は別として22年度、23年度で対応する考え方があるのか、これ非常に難しいと思うんですけど。それから近年児童・生徒、これはどこも皆一緒ですけど、どんどん減ってきておると、特にもう一桁代の学校もあると、非常にそれにおいてもやはり先生方、先程ありました給食調理員も人数がいくら少なくとも一人は置かなきゃならないという経費面でも非常に問題があると思います。そういうふうな学校の統廃合についてもこれからは考えていくべきじゃないかと。21年度計画の中でそういうものが含まれてるかどうか、また、これから先どういうふうな取り組みをされていくか。それから3点目給食の件ですけど、給食もこれは現場の校長先生から言わせればやはり自校でやっていくのが子供たちにも温かい美味しいものを直接目の前で調理して食べさせることができるから一番望ましいと言われておりますけど、経費面関係から今、共同調理場施設の設置、管理者制度等の傾向がかなり強くなっております。この点について21年度でどういうふうな計画を考えておられるか、以上3点についてお尋ねします。

教委事務局長（國舛八千雄君） それでは大中委員さんのご質問にお答えをいたしますが、予算の関係でございますがこれにつきましては小学校、中学校それぞれ膨大な予算が出て参ります。そういうことで一応教育委員会である程度予算を絞らせていただいて予算要求はさせていただいておるのが現状でございます。相当な予算が出て参りますので一応聞き取りをいたしまして、大事なところはなるべく取り入れるというような形で、今予算には、反映いたしておるところでございます。それでいくら出ておるかと言われますと、ここに試算したものがございませんが、また後日でも出せば出したいと思いますが、ちょっと厳しいところもあるかと思っております。そして自校式が良いが共同調理場にしたら予算的なものでどうかというお話

でしたが、これにつきましては、今、企画調整のほうで総合計画も立てていらっしゃいますのでその辺の関係、その後になるかというように思います。以上でございます。

副委員長（山中佳子君） 福田教育長。

教育長（福田徳郎君） ご質問の数が多かったのでまだ残っておるところがあるんじゃないかと思いますが、只今の学校からの要望と私どもの対応ということですが、これは安全・安心と言いますかそういったものを最優先にしておこなっておりますのでそういったものが欠けているとか来年度にまわすとかそういったことはございません。それ以外で学校が多額に及ぶものそういったもので直接今の安全・安心とまではいかないようなものは何年もそのままになつとということもございます。それから学校の統廃合ということでございますが、これにつきましては先程の説明の中で交流学习というのを3回から6回来年度は増やすということを申し上げました。美祢市の教育は小規模校、少人数の教育ということでの実績を高め、またそれが特色になっておると思っております。しかしながらこれからまた子供がだんだん減ってまいりますので統廃合というのは今後の大きな課題であるというふうに思っております。

副委員長（山中佳子君） 大中委員。

委員（大中 宏君） ここで回答というのは大変難しいと思いますけど、財政的にも大事なものはうんぬんということが言われましたけど、ほとんどの学校がPTA会費の中からとかあるいは特別寄附、あるいは教育後援会、そういうところからかなり大きな金額が流れておるんじゃないかと思います。美祢市全体から考えておると何百万という数字にもなるんじゃないかというふうに思います。先だって常盤公園でブランコの支柱が倒れて軽い怪我で済んだと新聞報道でも載ってましたね。そういうふうにいるんな遊具等についても危険箇所があればできるだけ教育後援会等でフォローできればそういうような形でやっておられるところがたくさんあるわけですね。それらは当然この教育予算の中で対応していくべきじゃないかというふうに思いますけど、事情が事情ですのでできるだけお互いに協力して地域の教育は地域のみんなで一緒に力を合わせてやっていこうじゃないかという精神のもとで協力してやってるわけです。やらなければそういうふうな形のほうでどうしても対応して行かざるを得ないということで、考えればそういう面に対応していただけるから若干教育予算も絞ってでもやれるんじゃないかというふうな面もずっと過去の例

から見受けられますので、是非これから先もそういうふうなことできるだけ考慮されて進んでいただきたいと思います。それから小規模校においても地区の人は学校がなくなればその地域が寂れていくというようなことも言われますが、実際に親御さん、保護者の方から言わせればできるだけ大人数のところでもまれたいと、そうしないと中学校なり高等学校に上がったときあるいは都会のほうに出いったときにやはり人間的な関係がうまくいかないと。交流というふうなことを言われましたけど、それではやはり対応できない、いろんな体験というものが特に小学校時代では大切な6年間となりますのでその点も併せてこれから先考えていただきたいと思いますというふうに思います。これは私の意見ですから回答はいりません。以上で終わります。

副委員長（山中佳子君） 山本委員。

委員（山本昌二君） 教育委員会のほうへすでに美東中学校から学校関係者による評価書の、いろいろ自己評価書いろいろとあるわけですが、その評価書の写しがすでに行っておるのではなかろうかと思いますが、そこで全部やると5時までかかりますので端的にちょっと教育委員会のほうへお願い申し上げてご回答得たいと思います。というのがですね、このPTAを含め地域の方が一番の意見を持っておるのが、たくさん項目ありますが、特に学校運営の改善に関する意見というところにまとめがあるわけですが、すでにいろいろ学校の教育方針の中にも謳ってありますが、改めてもう一度、きょうお聞きしたいと思いますが、自分のことや地域のことをしっかり表現できる力を育ててほしいと。それともう一つまわりに流されるのではなく自分の生き方を求めて精進し、社会に貢献するたくましい生徒を育ててほしいという、集約された学校への要望が出されておるわけです。これについて私もそれに関係しておりまして思っておることがたくさんありましたけど、これにつきまして教育委員会の方針、まったく変わりないと思いますが、美東中学校としてこういう意見がまとまったということについてちょっと教育委員会のお考えをお聞きしたいと思います。

副委員長（山中佳子君） 田中学校教育課長。

教委学校教育課長（田中円城君） 山本委員さんのご質問にお答え申し上げます。学校関係者評価書を学校で作っておりまして、それに基づきまして、学校には学校改善報告書を教育委員会のほうに提出するようになっております。現在、提出の締切日を3月9日としておりますので昨日30校全部の学校が提出を終わりました。

今から教育委員会のほうで中身をいろいろ点検しまして学校のほうにまた校長を通して指導をして参りたいと思っております。今ご指摘の1, 2ありましたが、学校としましては保護者地域のご意見を踏まえながら来年度学校改善に向けてもう方針もできておりますので、その方針もまた公表するというふうになっておりますのでその報告書もまた見られながら今後学校としましては21年度の改善方向、教育活動等見直して、またより良い学校運営をしていくものと思っておりますので、またご意見を賜ったらと思っております。今の生徒は規範意識が不足していると言われますのでそういった心の教育も各学校では充実して行くと思っておりますので、またよろしくお願い申し上げます。

副委員長（山中佳子君） その他に質疑はございませんか。布施委員。

委員（布施文子君） 先程からの評価の問題につきまして希望をちょっと述べさせていたいただきたいと思っております。いろいろな面で評価をし、指導した結果がどのような状況であるかというようなことを判断しながら次のステップに指導体制を改善していくということは大変大切なことであると思っております。あくまでもこの評価というのを地域評価も含めて先生方のやる気を後押しするようなものでなければならぬと思っております。子供たちの幅広い知識の習得に向けて点数だけを、点取り虫というようなものではなくてやっぱり生きて働く教育の力になるように役立てていただきたいという希望でございます。次に質問でございますが、教育振興費につきまして生涯学習のことにつきまして2点ほど質問させていただきます。小学校の教育振興費が700万円減、それから中学校の教育振興費が1,000万円の減になっておりますが、その中身と根拠についてご説明いただきたいと思っております。2点目は生涯学習のまちづくりにつきまして市民大学講座のお話がありましたが、費用が半減しておりまして、先程杉原課長さんのお話によりまして、今年は市民大学講座は1講座だというようなお話もありましたが、その点につきましてご説明をお願いしたいと思っております。以上でございます。

副委員長（山中佳子君） 杉原社会教育課長。

教委社会教育課長（杉原功一君） 布施委員さんのご質問にお答えいたします。まず市民大学講座の件でございますが、これにつきまして、今年度は合併1周年記念ということで各種イベントが繰り広げられるということもございます。それで全体的な市のイベント等も兼ね併せまして、この度につきましては市民大学講座は1回でということ考えて今回この予算を計上したわけでございます。

副委員長（山中佳子君） 國舛局長。

教委事務局長（國舛八千雄君） それでは布施委員さんのご質問にお答えをいたします。まず小学校の関係700万円ぐらいの減になっておりますが、これにつきましては機械の借り上げ料、パソコンのリース料でございますが、去年は2,161万6,000円でしたが、この度が1,956万5,000円ということでそのあたりで下がってきておるものでございます。そして中学校費につきましては備品の購入費でございます。これが去年は1,197万でしたが、今回は913万ということでそのあたりで減が出ておるということでございます。

副委員長（山中佳子君） 布施委員。

委員（布施文子君） よくわかりました。教育振興費につきましては先生方の研修費というのが少なくなったんじゃないかという思いがしまして質問したんですけれども、研修費が削減ということではないということで安心いたしました。

副委員長（山中佳子君） 田中学校教育課長。

教委学校教育課長（田中円城君） 布施委員さんのご質問にお答え申し上げます。先生方の研究費の減額じゃないかというご指摘でございますが、例えば275ページの一番下から2行目に県小学校長会の負担金、それから県公立学校教頭会負担金、それから次の277ページにつきましては県養護教員会負担金そして事務職員会の負担金がございますが、そのあと四つ、またございますが、この件につきましては財政難の折、美祿市としましては県への負担金については全額補助をしておりましたが、他市との比較に基づきましてやはり全額は補助は難しいであろうという判断の基に来年度は正直半額にしております。そういった関係も若干ありまして減額になってるものと思われませんが、他市との比較に基づきましてこの県の負担金につきましては補助を半額にしておるという状況でございます。

副委員長（山中佳子君） 布施委員。

委員（布施文子君） 先生方の研修につきましては指導力向上という面も含めましてできるだけしっかりと予算を取って研修をさせていただきたいというふうに思います。それから先程の市民大学講座の件につきましては一年間市民の教養講座でありまして楽しみでもあります。関心の深いところでありますのでこの件につきましても人材育成という面、あるいはお年寄りの方々が楽しみにしておられる一つの講座ですので今後もしっかりと予算を計上していただきまして市民に開いていただきたいというふうに思います。以上でございます。

副委員長（山中佳子君） その他に質疑はございませんか。岡山委員。

委員（岡山 隆君） それでは学校施設の整備経費についてであります。283ページ、ここにご説明が入っておりますけれども、今、日本全国において6強の地震がもし起こったならば約1万棟の小・中学校の施設が非常に厳しい状況にあるということが言われております。そういうことでそういった面から判断して予算措置が去年は確か1,450万、第二次補正予算も500万、新年度予算も確か1,450万ぐらいついておったと思っております。それでそういった中で今回こういった学校施設の整備経費がついておりますけれども、美祢市の全小・中学校、また社会教育の施設も踏まえてそういう築何年、耐震化強度いくらとかその辺の一覧、どのような状況なのかという、もし一覧表があればそういった資料というのは是非提供させていただきたいなと、そのように思っております。そういったことを詳しく書いた資料があるかどうかということと、もしあれば提出していただけるかどうかその点をまず第1点お伺いしたいと思っております。そういうことで、国の助成金ということで改良、すべて新しい校舎を建てるのであれば20%国の補助、また改築等であれば国が83、そういうことでかなり国が80%等々助成がありますので非常に期間限定でありますけれどもそういう措置がされております。そういった中で今こういった設計委託料とか見れば改築以前のまだ調査段階で、その予算もようやく付くか付かんかぐらい、というそういう状況であるとは思っておりますけれども、今後この辺の耐震化が厳しい状況にあった場合には、今後そういった施設の改築工事に対しては強烈に教育機関としてしっかりと充てていくかどうかその辺も合わせてこの2点お伺いしたいとおもいます。

副委員長（山中佳子君） 國舛局長。

教委事務局長（國舛八千雄君） それでは岡山委員さんのご質問にお答えいたします。まず1点目の耐震の関係の結果の一覧表ということでございます。これにつきましては学校施設につきましては今耐震の推進計画を作成をいたしております。これでこの2月には教育委員会にもかけまして一応ご了解もいただいておりますので今月中にはその推進計画をインターネットで公表しようというように思っております。そういうことでそれをご覧いただいたら一覧表は出てくるかというように思っております。それは学校教育施設に限りでございます。そして、今現在言われましたように第二次診断をやっております。そして大嶺中、秋芳北中につきましては耐力度調査も進めてきておるところでございます。これも補正でございましたがやって

おります。そういうことで現在これに伴いまして、今後の設計業務の委託ということで今回、新年度予算を出させていただきました。それでできるだけ早いうちにその工事も進めて行きたいというようには思っておりますし、平成22年度までが今の耐震計画の推進になっております。そういうことで国も県で非常に強力にその計画を進めております。そういうことで国・県も補助はおそらく十分つけてくるだろうと思っておりますし、できる限りの対応をしていきたいと思っております。

副委員長（山中佳子君） 岡山委員。

委員（岡山 隆君） わかりました。しっかり美祢市のホームページの中に入っているということですね。そういうことでインターネット、私ら、そういう形で見ていけるんですけど、中には見られない方もおられますのでどうか一応議員さんの方にはそういう一覧表というのはきちっと紙ベースで申し訳ないですけども提出していただきたいなと、ひとつそのように思っておりますので、今後もしっかりと耐震化に対してもそれを目に見ることによってきちっと耐震化の推進をおこなっていかなくてはならないという認識に繋がってくると思っておりますのでどうかその点もひとつよろしく願います。あとはしっかりと今後そういった小・中学校の施設に關しましては統廃合の件もいろいろありましてそう簡単に進めていくことが難しいと思っておりますけれども、いずれにしても築50年とか今回説明ありました美東のA・B棟これは築50年経ってますので、これは取りも直さず早急にこういった耐震、また改良工事等しっかり進めていかなくてはならないと、ましてや秋芳は中学校が二つが一つになるとそういうふうに進進してるところには是非手厚く、そういう合併した地域にはそういった耐震化をすぐ対応していくというご配慮を今後ともしっかりとお願いしてもらいたいということをお願いして私の質疑を終わります。

副委員長（山中佳子君） その他に質疑はございませんでしょうか。有道委員。

委員（有道典広君） 予算には直接関係ないような質問いたしますが、今年度いろんな施設がありますが、指定管理者制度に移行とかそういうふうなことは何も書いてありません。厳しき財政の折、今後もいろいろあると思っておりますけど、今後やるのかどうか、またやるのであればどのようにっていう、この1年に限らなくても結構ですからその辺の具体的なご説明がいただければと思います。よろしく願います。

副委員長（山中佳子君） 福田教育長。

教育長（福田徳郎君） 教育委員会に関わる施設、特に社会教育に関わる施設が、

文化・体育に関わる施設が多いわけですが、こういったものの指定管理者につきましては現時点ではいつからするという計画は立てておりませんが、これも近い将来必ずそういったことについては検討しなければいけないものだと思います。旧美祢市の段階ですでにそういったことを検討するという事になって、検討が続いているという段階でございます。以上です。

副委員長（山中佳子君） 有道委員。

委員（有道典広君） 教育委員会の施設で学者とかいろんなそういうふうな関係が必要な施設もありますけど、保健体育施設とかいろんなものがありますね。これらに対しても何ら考えておられないんですか。今のところ考えておられないとは言われましたけど。

副委員長（山中佳子君） 福田教育長。

教育長（福田徳郎君） 考えていないのではなくて具体的な計画、来年度からおこなうとか再来年度からおこなうとかいう具体的な計画はまだ示してないということでございます。

副委員長（山中佳子君） 有道委員。

委員（有道典広君） わかりました。やろうとする気持ちは幾分あるということですね。はい、わかりました。

副委員長（山中佳子君） その他、質疑はございませんか。質疑なしと認め質疑を終わります。ここで午前中の質疑の答弁の宿題部分、答弁まだの部分がありますので執行部よりお願いします。金子商工労働課長。

建設経済部商工労働課長（金子 彰君） 午前中ご審議をいただきました商工費の中で安富委員のほうからご質問がございました。その件に関しましてお答えをいたしたいと思っております。十文字工業団地の件でございました。なお最初に、私、その時に、現在8社創業しているというふうに申し上げましたが、実際には9社創業いたしております。お詫びして訂正をさせていただければと思っております。この従業員が何人かというご質問でございましたが、現在、この9社で106名の方を雇用しております。そのうち約半分にあたります48名が市内の方でございます。それと税収についてのご質問でございましたが、この9社のうち1社につきましては、今年度創業された関係でまだ固定資産税のほうが確定をいたしておりません。残り8社につきまして総額で約1,000万円でございます。この8社のうち3社におきましては現在、企業立地奨励条例に基づきます3年間の減免期間でございまして、こ

れを除きました平成20年度の実際の税収につきましては約370万円ということになります。以上でございます。

副委員長（山中佳子君） 伊藤建設部長。

建設経済部長（伊藤康文君） 同じく午前中に安富委員からいただいたものでございますが、県事業負担金3,000万円の出す所以はということで地方財政法のほうにございまして、ちょっと読み上げさせていただきます。都道府県のおこなう建設事業に対する市町村の負担としまして第27条に都道府県のおこなう土木その他の建設事業でその区域内の市町村を利せるものについては都道府県は当該建設事業による受益の限度において当該市町村に対し当該建設事業に要する経費の一部を負担させることができる。と1項にあります。合わせて2項に前項の経費について市町村が負担すべき金額は当該市町村の意見を聞き、当該都道府県の議会の議決を経てこれを定めなければならない。とございます。よって県事業負担金で県の事業については県議会のほうで議決された内容ということでその決められた負担に対して払っておるということになります。県がやる場合の事業に対して負担をなくするということの要望については今後、当然私のほうの考えだけではいけないわけですけど、全県的なことがございます。その辺の要望については当然考えなければならないというふうには思っております。安富委員質問については以上です。それからもう一つ、佐々木委員のほうでご質問がございました分で、道路台帳作成委託料で20年度の新設改良がどこにあってそれが道路台帳に何箇所反映しとるかということでした。地図を持ってということでちょっと大きく言ってしまいましたが、内容については21年度については20年度事業と言いましたけど、20年度以前の事業を21年度の道路台帳で示すということで21年度については旧美祢市分の4件、延長にして2.5キロになりますがその台帳整備と、それと3地区の道路台帳の若干の整備を整えるために合わせて予算化しております。この経費につきましては20年度は280万、21年度は250万とちょっと下がり傾向にございますが、その辺予算の許す範囲でやりたいということで思っております。以上でございます。

副委員長（山中佳子君） ありがとうございます。それでは次に災害復旧費及び公債費を議題といたします。執行部より説明を求めます。

中村農林課長。

建設経済部農林課長（中村弥寿男君） それでは予算書の318、319ページを

お願いいたします。中段から下になりますが11款災害復旧費、1項農林施設災害復旧費でございます。目の1といたしまして単独災害復旧費をあげております。これは現年発生災害復旧費としまして少額災害復旧工事補助金36万円をあげております。この単独災害復旧費につきましてこれまで発生した災害の積み残し分はございません。よって今年度の予算につきましては21年度に発生を想定をし、発生した場合に速やかに復旧にかかれるようにということで仮に予算計上しておるものがございます。そしてこの単独災害復旧費につきまして平成20年度におきましては一市二町合併をいたしました。一市二町それぞれこの単独災害復旧費での対応が違っておりました。20年度に調整をするということになっておりまして昨年の12月議会におきまして条例改正をおこなったところでございますが、近隣の市の対応状況等調査をいたしまして補助金方式で対応するというようにしているところであります。この補助金方式といいますのは、受益者の皆様方で復旧工事を施工していただきましてその復旧費に対して一定割合を助成するという制度にするというものでございます。補助割合でございますが農地につきまして復旧費の50%、水路や農道といたしました施設関係につきまして70%の補助率を予定をしておるところでございます。21年度予算につきましては仮の予算ということで農地1件、施設1件につきまして予算計上しておるところでございます。次に目の2、補助災害復旧費でございます。これは公共災害に該当する復旧費を予算計上いたしております。この補助災害につきましても単独災害と同様積み残しの案件はございません。仮に今年度発生した場合、速やかな事務処理に対応するため仮に予算計上させてもらっておるものがございます。農林施設災害復旧費につきましては以上でございます。

副委員長（山中佳子君） 伊藤建設部長。

建設経済部長（伊藤康文君） 次のページになります。320、321ページをお願いいたします。中段になります。2項土木施設災害復旧費でございます。目1としまして単独災害復旧費、450万。これにつきましては21年度の単独災害に備えたものとして緊急対応としまして作業賃金30万、復旧工事として420万計上しております。10件程度の緊急的なものには対応したいということで計上しております。目2につきまして補助災害復旧費1,110万7,000円これにつきましてはまた同じく21年度の公共災害に備えたものがございます。公共災害と単独災害の違いの概要を言いますと、金額的には60万以上になると公共災害、当然そ

の災害に認定となる雨量、水かさ等の条件がございますが、それと市道については2 m以上、川については川の河床から1 m以上の水位があったことが発覚のうで雨量等による災害ということが認定された場合に限りです。それと災害が発生した場合の測量設計委託料として50万円及び災害復旧工事として1,000万、それにかかる事務費等計上しまして特定財源のほうになりますが、事業費の66.7%の707万4,000円を計上しております。災害復旧費については以上でございます。

副委員長（山中佳子君） 羽根財政課長。

総務部財政課長（羽根秀実君） 同じページの320、321ページの12款公債費、1項公債費、1目元金ということでこれは平成20年度までに借り入れを起しました元金の償還金でございます。金額的に23億1,966万円。これの財源といたしましては320ページのほうを見ていただけたらと思いますが、県の支出金ということでこれは県の補助金の中で107ページですが、県の支出金の中で2の林業費補助金というのがありますが、この中の中程に国定公園管理費補助金ということで秋吉台の管理運営費に200万とその残りの584万7,000円を公債費として充当をいたしております。それから市債ということで1億3,900万ということでこれにつきましては125ページでございます。125ページの7の借換債この節の1といたしまして学校教育施設等整備事業借換債。これは金利の高いものにつきましては借り換えができるということでこれにつきましては平成19年度から21年度の3カ年に限りまして低利の起債に借り換えるということで借換債といたしまして1億2,300万。それと地域総合整備貸付事業借換債ということで、これは平成11年度に地域総合整備事業ということで平成11年に借り入れをしたものでございまして、15年の償還がございまして、10年を経た時点でこれは利率の見直しをおこなうということの借り換えということで1,600万円。合わせまして先程申し上げました1億3,900万円を財源といたしております。それからその他の1億1,756万8,000円でございますが使用料及び手数料は住宅使用料を財源に充てております。それから諸収入ということで1,285万円でございますが、これは117ページでございますが、117ページの20款諸収入、貸付金元利収入の地域総合整備貸付金収入1,285万円を公債費として充当しております。それから目2の利子でございますが、これは先程申し上げましたように20年度までに借り入れをいたしました利息として支払うものでござい

まして3億2,789万7,000円。対前年比にいたしますと4,165万6,000円の減額となっております。公債費全体では対前年比2億737万9,000円の減となっております。以上でございます。

副委員長（山中佳子君） 説明が終わりました。質疑を行います。質疑はございませんか。山本委員。

委員（山本昌二君） 先だって財政課へ参りまして地方交付税の平成20年度の算定の書類ちょっと見させていただいたんですが、これは内容じゃありません。おおざっぱなことですが。これには基準財政需要額の中に多少道路整備に関係した部分で過疎計画、旧過疎計画の中でいずれも公債費の部分入っておろうと思うんですよ。これについてはまだ立法が続いておるんですが、その辺この公債費の中の何%ぐらいが地方交付税の基準財政需要額で算定されているか、もし掌握しておられればご回答いただきたいと思います。以上です。

副委員長（山中佳子君） 羽根財政課長。

総務部財政課長（羽根秀実君） 20年度末の数字でございますが45.3%程度が公債費として需要額の中に含まれております。以上でございます。

副委員長（山中佳子君） その他に、質疑ございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

副委員長（山中佳子君） 質疑なしと認め質疑をおわります。

以上で議案第11号平成21年度美祢市一般会計予算の説明・質疑までを終了いたしました。なお、討論・採決につきましては総括審議が終了後におこないます。よろしく願いいたします。それではその他委員の皆さまから何かございましたらご発言をお願いいたします。議長よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

副委員長（山中佳子君） ないようでしたらこれにて本日の審査を終了いたします。なお、明日は全特別会計予算、企業会計予算につきまして審査をいたします。それでは明日3月11日午前9時30分より当委員会を開催いたしますのでよろしく願いいたします。本日はこれにて散会いたします。ご審査・ご協力誠にありがとうございました。お疲れでございました。

午後1時27分閉会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成21年3月10日

予算審査特別委員会

委員長

徳 英 彦 司

副委員長

山 中 佳 子